

2025 年 11 月 10 日

PGF生命
〔 プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル 〕
生命保険株式会社

PGF生命、『おとなの親子』の生活調査 2025 を実施 -40～69 歳の男女を対象とした親子関係に関するアンケート-

PGF生命（プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命保険株式会社、代表取締役社長 兼 CEO 得丸 博充）は、2025 年 9 月 9 日（火）～9 月 11 日（木）の 3 日間、70 歳以上の実の親がいる 40～69 歳の男女を対象に『おとなの親子』の生活調査 2025 をインターネットリサーチで実施し、有効サンプル 2,000 名の集計結果を公開しました。（調査協力会社：ネットエイジア株式会社）

人生 100 年時代を迎え、成人後の親子関係もより長く続いていきます。このたび PGF 生命は、内閣府が定めた「家族の日」（2025 年 11 月 16 日（日））にちなみ、高齢の親がいる子どもに『おとなの親子』の生活について聞いたところ、多様な生活実態や生活意識が垣間見える結果となりました。



トピックス 1 : おとなの親子の会話実態 大人になってから会話の内容は変わった？

大人になってから親と話す頻度が増えたこと 1 位「健康・病気」2 位「日常の出来事」3 位「家族・親戚」

大人になってから親と話す頻度が減ったこと 1 位「自身の悩み」2 位「旅行・レジャー」「ファッション」

おとなの親子ではどのようなテーマが会話の中心となっているのでしょうか。

大人になってから、親と話す頻度が増えたことを聞いたところ、「健康・病気」が最も高くなりました。大人になるにつれ、共感できることが増えるほか、将来に備えて、親の健康状態を把握しておくために、自然と健康に関する話題が増えている親子が多いのかもしれません。次いで、「日常の出来事」、「家族・親戚」、「子ども」、「食事・グルメ」となりました。

反対に、大人になってから、親と話す頻度が減ったことを聞いたところ、最も高くなったのは「自身の悩み」で、「旅行・レジャー」「ファッション」、「将来の計画」、「芸能・音楽」が続きました。

◆大人になってからの、親との会話の内容（複数回答形式）※それぞれの上位5位までを表示
全体[n=2000]

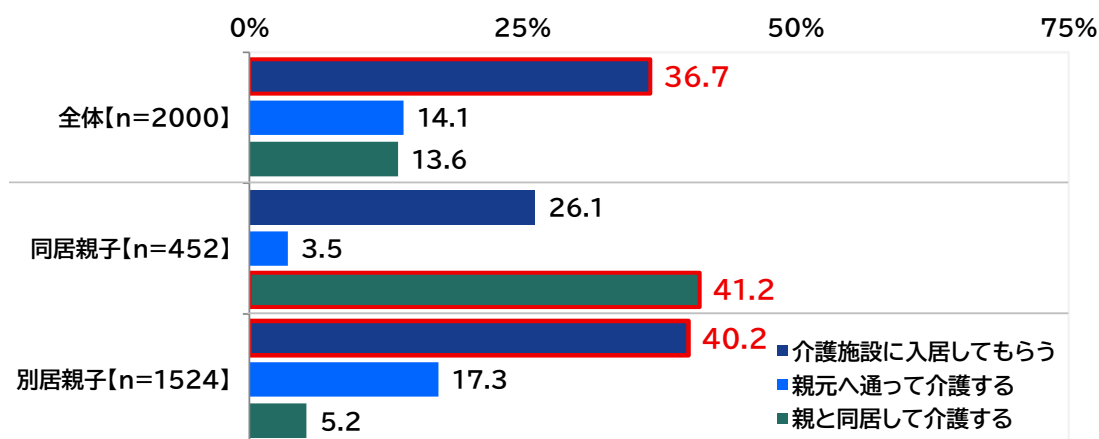
親と話す頻度が増えたこと			%	親と話す頻度が減ったこと			%
1位	健康・病気		43.6	1位	自身の悩み		7.8
2位	日常の出来事		37.1	2位	旅行・レジャー		7.2
3位	家族・親戚		31.4		ファッション		7.2
4位	子ども（※親にとっての孫）		29.3	4位	将来の計画		6.9
5位	食事・グルメ		22.1	5位	芸能・音楽		6.5

トピックス2 :親が介護状態になったらどうしたい？ 同居親子では「親と同居して介護する」が約4割、別居親子では「介護施設に入居してもらう」が4割

親が介護状態になったらどうしたいか聞いたところ、「介護施設に入居してもらう」が36.7%、「親元へ通って介護する」が14.1%、「親と同居して介護する」が13.6%となりました。老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅といった施設に入居してもらうことを希望する人が多いようです。

同居親子・別居親子についてみると、同居親子では「親と同居して介護する」が最も高くなり、別居親子では「介護施設に入居してもらう」が最も高くなりました。現在親と同居している人では、親が介護状態になった場合も、引き続き親と一緒に生活したいと考えている人が多いようです。

親が介護状態になったらどうしたいと思うか（単一回答形式）



トピックス3 :親に勧めたいこと 1位「健康的な食事」2位「断捨離・片付け」3位「脳トレ」 50代女性では「運転免許証の返納」が5位に

親に勧めたいことを聞いたところ、1位「健康的な食事」、2位「断捨離・片付け」、3位「脳トレ」となりました。今後のために、心身の健康維持、身の回りの整理をしてほしいと感じている人が多いのではないのでしょうか。

男女・年代別にみると、50代女性では「断捨離・片付け」が1位、「運転免許証の返納」が5位に挙がりました。

◆親に勧めたいこと（複数回答形式） ※全体は上位10位、男女・年代別は上位5位までを表示

全体[n=2000]		%	40代男性[n=333]		%	50代男性[n=334]		%	60代男性[n=333]		%
1位	健康的な食事	25.9	1位	健康的な食事	23.1	1位	健康的な食事	22.5	1位	健康的な食事	25.5
2位	断捨離・片付け	20.9	2位	運動・スポーツ	17.1	2位	運動・スポーツ	15.9	2位	脳トレ	17.1
3位	脳トレ	19.8	3位	脳トレ	15.0	3位	脳トレ	14.7	3位	断捨離・片付け	16.8
4位	運動・スポーツ	15.4	4位	断捨離・片付け	13.5	4位	断捨離・片付け	13.8	4位	運動・スポーツ	9.0
5位	遺言書の作成	11.7	5位	遺言書の作成	10.8	5位	遺言書の作成	9.6	5位	遺言書の作成	8.1
6位	運転免許証の返納	8.3	40代女性[n=333]		%	50代女性[n=334]		%	60代女性[n=333]		%
7位	コミュニティ・サークルへの参加	8.1	1位	健康的な食事	28.8	1位	断捨離・片付け	29.9	1位	健康的な食事	27.9
8位	節約	4.5	2位	断捨離・片付け	27.9	2位	健康的な食事	27.2	2位	脳トレ	26.1
9位	資産運用	3.8	3位	脳トレ	24.9	3位	脳トレ	21.0	3位	断捨離・片付け	23.4
10位	習い事	3.4	4位	運動・スポーツ	21.9	4位	遺言書の作成	16.2	4位	運動・スポーツ	14.1
			5位	遺言書の作成	15.0	5位	運転免許証の返納	15.0	5位	遺言書の作成	10.2

次頁には、トピックスには収まりきれなかった調査内容項目をハイライトで公開！さらに、5頁目からは、調査の結果詳細を図解解説しています。『おとなの親子』の生活意識や実態をチェックしてみてください。

<調査結果ハイライト>

第1章：おとなの親子関係

- 「自身が親離れできていないと思う」「親が子離れできていないと思う」は10人に1人
いずれも女性では14%と、男性より10ポイント近く高い結果に
- 自身が親離れできていないと感じたエピソード
「いつまでも食事を作ってもらっている」「親が喜ぶような決断をしがち」など
- 親が子離れできていないと感じたエピソード
「いつまでも小さい子どもにするような注意をしてくる」「実家の近くに引越しを勧めてくる」など
- 年齢を重ねてやっと理解できた親の言葉
「勉強しておきなさい」「身の丈に合った生活をする」「親孝行したいときには親はなし」など
- 「年齢を重ねて“親に似てきたな”と思うことがある」は約半数
“親に似てきたな”と思うこと 1位「性格」2位「行動パターン」3位「生活習慣」
- 親との関係性の変化を感じたこと
「守られる立場から、守るほうになった」「何かの決断を委ねられるようになった」
「親の苦労がわかって、自分が優しくなった」「家の管理や決め事が自分になってきた」など
- おとなの親子の会話実態 大人になってから会話の内容は変わった？
大人になってから親と話す頻度が増えたこと
1位「健康・病気」2位「日常の出来事」3位「家族・親戚」
大人になってから親と話す頻度が減ったこと
1位「自身の悩み」2位「旅行・レジャー」「ファッション」
- 大人になってから、親と話したいと思っているが話せていないこと
1位「お金」2位「将来の計画」3位「自身の悩み」
- 親から教わって感謝していること
男性1位「礼儀・作法に関すること」、女性1位「料理・食に関すること」
- 親の尊敬できるところ TOP3 「優しさ、思いやり」「真面目さ、誠実さ」「仕事、働く姿勢」
- 親の見習いたくないところ TOP3 「性格」「人間関係・コミュニケーション」「生活習慣」
- 時代錯誤・ハラスメントだと思った親の発言・行動
「旦那さんに家事を頼んだら怒られた」「会社を辞めるのは心が弱いからと言われた」など
- 現在、親と一緒に楽しんでいること 1位「食事、グルメ」2位「旅行」3位「スポーツ観戦」
- 親に勧めたいこと 1位「健康的な食事」2位「断捨離・片付け」3位「脳トレ」
50代女性では「運転免許証の返納」が5位に
- 理想の『おとなの親子』だと思う芸能人親子は？
「高橋 英樹さん&高橋 真麻さん」「関根 勤さん&関根 麻里さん」が3年連続1位・2位！
理由は「高橋 英樹さん&高橋 真麻さん」では「お互いに尊重し合い、程良い距離感を保っている」、
「関根 勤さん&関根 麻里さん」では「親子間でコミュニケーションがとれている」など

第2章：『おとなの親子』のコミュニケーション頻度

- 『おとなの親子』の居住状況 「同居親子」は23%、「別居親子」は76%
- おとなの別居親子のコミュニケーション実態 「昨年、1回も親に会いに行かなかった」14%
- 親との食事について 「昨年、別居している親と一緒に食事をしなかった」60代男性では4割
- おとなの親子では電話が主流？
別居の親とのコミュニケーション実施率 「電話」は82%、「メールまたはLINE」は50%にとどまる

- 昨年にした親との旅行 平均は1.8回/年、最多は30回/年！
- 「今年の年末年始に親に会う予定がある」別居親子の62%、昨年より7ポイントダウン
インバウンド需要や物価高が影響か
- おとなの親子の喧嘩実態 同居親子では平均18回/年、別居親子の8倍に

第3章：『おとなの親子』のマネー事情

- マネー事情の情報共有について
「親の資産の内容（種類や資産額）を把握していない」7割強、
「親の収入や生活費を把握していない」6割半、
「自分の収入や資産の内容（種類や資産額）を親に伝えていない」8割強
- 金銭の支援は一方通行？ “親に金銭面の支援をしたことがある人”は23%、
“親から金銭面の支援を受けたことがある人”は46%と、支援をしたことがある人の2倍に
- 親から受けた支援額 平均は「不動産購入時の頭金」563万円、「子どもの教育資金」180万円、
「生活費（社会人以降）」139万円、「結婚費用」137万円、「自動車購入時の頭金」133万円

第4章：『おとなの親子』の贈与・相続

- 「親からの生前贈与もしくは相続について親子間で協議したことがある」60代の4人に1人
- 「親から生前贈与を受けたことがある」1割強
- 相続対策の状況は？ 後回しにしている人が圧倒的！ 約9割が「まだしていない」と回答
- 相続に関する不安要素も
「争族に陥ると心配している」相続対策をしていない人の約6人に1人
「親の遺言の内容を知っている」1割、
「きょうだい間など親族同士の助け合いやコミュニケーションが少ない」約4割、
「親の資産が分割しづらい自宅などに偏っている」3割弱

第5章：『おとなの親子』の将来への不安

- 人生100年時代 親の介護で不安なことは体力より精神への負担！
40代では「介護と仕事の両立」が1位
- 親が介護状態になったらどうしたい？ 同居親子では「親と同居して介護する」が約4割、
別居親子では「介護施設に入居してもらう」が4割
- 親が飼っているペットの種類 「犬」42%、「猫」39%
「ペットロボット」は2%と、「ハムスター」の1%を上回る結果に
- 親が介護状態になったり、亡くなったりした際に、親のペットの世話をどうする？
別居親子では「何も決めていない」が半数以上
- 親の今後やサポートについて不安やリスクを感じる TOP2 「健康状態・病気」「認知症」

■■報道関係の皆様へ■■

本ニュースリリースの内容の転載にあたりましては、
「PGF生命調べ」と付記のうえご使用いただきますようお願い申し上げます。

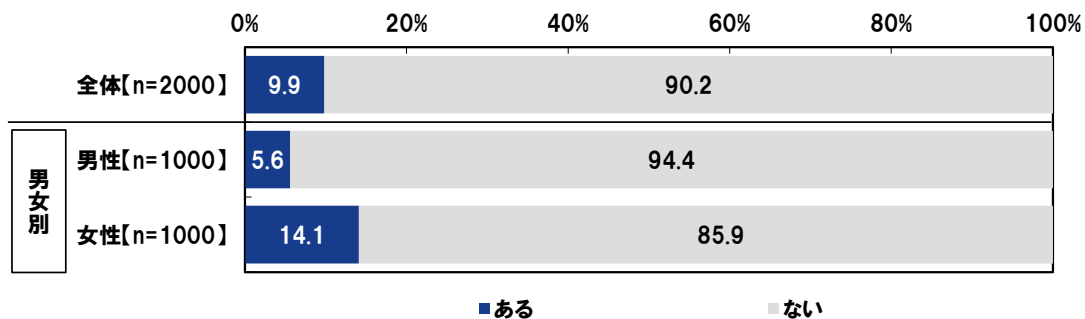
第1章：おとなの親子関係

■「自身が親離れできていないと思う」「親が子離れできていないと思う」は10人に1人
いずれも女性では14%と、男性より10ポイント近く高い結果に

70歳以上の実の親がいる40～69歳の男女2,000名（全回答者）に、おとなの親子の親子関係について質問しました。

まず、全回答者（2,000名）に、自身が親離れできていないと感じたことがあるかを聞いたところ、「ある」は9.9%、「ない」は90.2%と、ほとんどが親離れできていると感じていることがわかりました。男女別にみると、「ある」（男性5.6%、女性14.1%）は、女性では男性の2倍以上となりました。

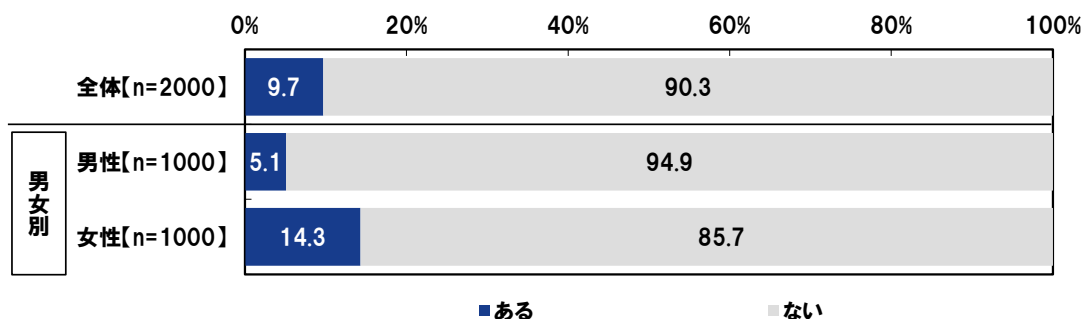
◆自身が親離れできていないと感じたことがあるか



反対に、親が子離れできていないと感じたことがあるかを聞いたところ、「ある」は9.7%、「ない」は90.3%と、自身の親離れに対する意識と同様、大多数が親が子離れできていると感じていることがわかりました。おとなの親子ではお互いに自立していると感じている人が多いようです。

男女別にみると、「ある」と回答した人の割合は、男性5.1%、女性14.3%と、男性と比べて女性のほうが9.2ポイント高くなりました。

◆親が子離れできていないと感じたことがあるか



■自身が親離れできていないと感じたエピソード

「いつまでも食事を作ってもらっている」「親が喜ぶような決断をしがち」など

自身が親離れできていないと感じたことがある人（197 名）に、自身が親離れできていないと感じたエピソードを聞いたところ、「いつまでも食事を作ってもらっている（60 代女性）」、「数ヶ月ごとに食品などを送ってくれること（40 代男性）」、「実家の近くに住んでいる（40 代女性）」といった回答がみられました。また、「なんでも親に頼ってしまう。いつまでも元気だと思っている（40 代女性）」や「困るとすぐ連絡（50 代男性）」、「親が喜ぶような決断をしがち（40 代女性）」といった回答もみられました。経済的な援助のほか、家事の手伝いといった親からの支援やサポートを受けるときや精神的に親に頼ってしまうときに、自身が親離れできていないと実感することが多いようです。

◆自身が親離れできていないと感じたエピソード（自由回答形式）※抜粋して表示

対象：自身が親離れできていないと感じたことがある人

全体【n=197】

《家事を手伝ってもらう、してもらっている》

- ・ いつまでも食事を作ってもらっている（60代女性）
- ・ 難しい裁縫と一緒にしてもらう（50代女性）
- ・ 何でも甘えてしまう。金銭面以外の裁縫や料理など（40代女性）
- ・ 炊事洗濯を任せっきり（40代男性）

《経済的に支援してもらっている》

- ・ いまだに交通費を母からもらっている（40代男性）
- ・ 金銭面で頼ってしまう（50代男性）
- ・ お金に困った時頼ってしまう（50代女性）
- ・ 数ヶ月ごとに食品などを送ってくれること（40代男性）
- ・ 金銭的に余裕がなければ食べ物を持ってきてくれる。NISAなどについて任せている（40代女性）

《同居している、自立できていない》

- ・ 実家に帰るとつい甘えてしまう（60代女性）
- ・ 実家の近くに住んでいる（40代女性）
- ・ いまだに同居していて、支援やサポートもまったく十分でないところ（40代男性）

《頼ってしまう》

- ・ 1人になるとき頼りたくなる（60代女性）
- ・ 常に頼っている（50代男性）
- ・ 自分一人では出来ないことを親に頼ってしまう（40代男性）
- ・ 精神的に頼るところ（60代男性）
- ・ なんでも親に頼ってしまう。いつまでも元気だと思っている（40代女性）

《何かにつけ相談する》

- ・ 決断するときに親に必ず聞いてしまう（50代女性）
- ・ 困るとすぐ連絡（50代男性）
- ・ 親が喜ぶような決断をしがち（40代女性）
- ・ 何かあったら一番に相談するところ（50代女性）

■親が子離れできていないと感じたエピソード

「いつまでも小さい子どもにするような注意をしてくる」「実家の近くに引越しを勧めてくる」など

親が子離れできていないと感じたことがある人（194 名）に、親が子離れできていないと感じたエピソードを聞いたところ、「帰る時間や食事内容などを何度も聞いてくる（60 代女性）」や「いつまでも小さい子どもにするような注意をしてくる（40 代男性）」といった回答、「コロナで自分が熱があるのに子どもの世話をしようとする（60 代男性）」、「親が自分の家の前を通るたびに電話をかけてくる（40 代女性）」、「実家の近くに引越しを勧めてくる（40 代女性）」、「仕事のチャンスがあったのに、同居を望んだためにできなかった（60 代女性）」といった回答がみられました。親が子離れできていないと感じている人では、些細なことで心配されたり、干渉・心配されるといったいつまでも子どものような扱いをされたりすることが多いようです。

◆親が子離れできていないと感じたエピソード（自由回答形式）※抜粋して表示

対象：親が子離れできていないと感じたことがある人

全体【n=194】

《心配してくる》

- ・ 帰る時間や食事内容などを何度も聞いてくる（60代女性）
- ・ 些細な事でも心配する（50代女性）
- ・ いつまでも生活の心配をする（60代男性）
- ・ いつも自分のことを心配している（50代男性）

《干渉・口出しされる》

- ・ いつまでも小さい子どもにするような注意をしてくる（40代男性）
- ・ いまだに、することに先回りをしてアドバイスしようとする（60代女性）
- ・ 気に入らない事柄を絶対にやらせない、頭ごなしに否定する（40代女性）
- ・ いつまで経っても帰りの心配や、どこに行ったかと干渉する（50代女性）

《家事などの世話を焼きたがる》

- ・ なんだかんだ色々世話を焼きしてくれる（40代女性）
- ・ 兄の世話を焼きすぎ（50代女性）
- ・ コロナで自分が熱があるのに子どもの世話をしようとする（60代男性）

《頻繁に電話をかけてくる》

- ・ やたらと電話をかけてくるところ（60代男性）
- ・ 親が自分の家の前を通るたびに電話をかけてくる（40代女性）
- ・ 何か心配や不安があると、すぐに電話してきて、納得いくまで話をすること（50代女性）

《同居・近居してほしいと言われる、自立させてくれない》

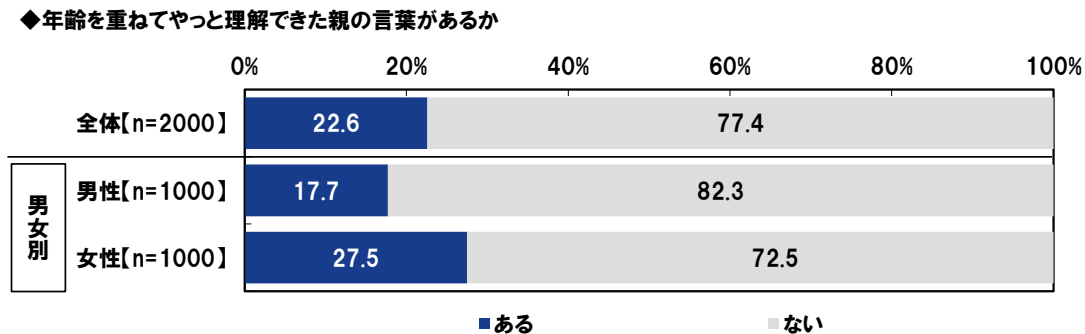
- ・ 実家の近くに引越しを勧めてくる（40代女性）
- ・ 離れさせない（40代男性）
- ・ 仕事のチャンスがあったのに、同居を望んだためにできなかった（60代女性）

■年齢を重ねてやっと理解できた親の言葉

「勉強しておきなさい」「身の丈に合った生活をする」「親孝行したいときには親はなし」など

全回答者（2,000 名）に、年齢を重ねてやっと理解できた親の言葉があるかを聞いたところ、「ある」は 22.6%、「ない」は 77.4%でした。

男女別にみると、「ある」は男性では 17.7%、女性では 27.5%となりました。



年齢を重ねてやっと理解できた親の言葉がある人（452 名）に、年齢を重ねてやっと理解できた親の言葉を聞いたところ、「親の心子知らず（60 代男性）」、「お金を貸す場合は、あげたと思え（40 代女性）」、「普通に生活できているありがたさ（60 代女性）」といった回答や、「身の丈に合った生活をする（40 代女性）」、「睡眠、食事の大切さ（50 代女性）」、「勉強しておきなさい（40 代女性）」、「人のために尽くしなさい（50 代男性）」、「親孝行したいときには親はなし（40 代男性）」といった言葉が挙げられました。

◆年齢を重ねてやっと理解できた親の言葉（自由回答形式）※抜粋して表示

対象：年齢を重ねてやっと理解できた親の言葉がある人

全体【n=452】

《子どもについて》

- 子どもを育てるのは大変（50代男性）
- 親の心子知らず（60代男性）
- 親の前に死ぬな（40代男性）
- 子どもが大人になっても親の心配は尽きない（50代女性）

《お金について》

- お金がないと何もできない（50代男性）
- 貯められるときに貯めなさい（40代女性）
- 金は大事だ（60代男性）
- 金は邪魔にならない（60代女性）
- お金を貸す場合は、あげたと思え（40代女性）
- 自分の身になることにお金を使って（50代女性）

《感謝すること》

- あたりまえに感謝（50代男性）
- 周囲に感謝しなさい（40代男性）
- 両親への感謝（50代男性）
- 配偶者への感謝の気持ち（40代女性）
- 普通に生活できているありがたさ（60代女性）

《節約・儉約》

- 質素な生活（40代女性）
- 身の丈に合った生活をする（40代女性）
- つつましい生活（60代男性）
- 足を知る（40代女性）
- 地道に暮らす（60代女性）

《健康・生活習慣について》

- 健康には気をつけて（50代男性）
- 睡眠、食事の大切さ（50代女性）
- 歯と目は大切に（50代女性）
- 規則正しい生活（60代男性）
- 昔できていたことができなかった（60代女性）

《努力・苦勞》

- 勉強しておきなさい（40代女性）
- 続けることの重要性（40代男性）
- 辛抱（60代男性）
- 働かざる者食うべからず（50代女性）
- 若いうちの苦勞は買ってでもしろ（60代女性）

《その他》

- 人のために尽くしなさい（50代男性）
- 親孝行したいときには親はなし（40代男性）
- いつも笑顔でいなさい（40代女性）
- 友人を大切に（40代男性）
- 相手の立場に立って物事を考えなさい（40代女性）

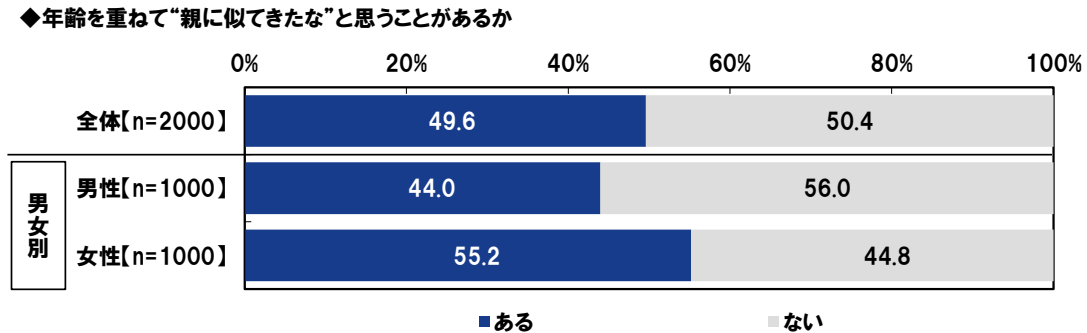
■「年齢を重ねて“親に似てきたな”と思うことがある」は約半数

“親に似てきたな”と思うこと 1位「性格」2位「行動パターン」3位「生活習慣」

続いて、親に似てきたと感じることについて質問しました。

全回答者（2,000名）に、年齢を重ねて“親に似てきたな”と思うことがあるかを聞いたところ、「ある」は49.6%、「ない」は50.4%と、拮抗しました。

男女別にみると、「ある」と回答した人の割合は、男性44.0%、女性55.2%と、男性と比べて女性のほうが11.2ポイント高くなりました。



“親に似てきたな”と思うことがある人（992名）に、年齢を重ねて“親に似てきたな”と思うことを聞いたところ、1位「性格」（33.5%）、2位「行動パターン」（22.6%）、3位「生活習慣」（21.1%）となりました。普段の言動から似てきたことを実感することが多いのではないのでしょうか。次いで、4位「口ぐせ」（20.8%）、5位「食の好みや好きな味付け」（19.9%）となりました。

男女別にみると、男性では6位だった「食の好みや好きな味付け」（男性15.9%、女性23.0%）が女性では2位に挙がりました。

◆年齢を重ねて“親に似てきたな”と思うこと（複数回答形式）※上位10位までを表示

対象：“親に似てきたな”と思うことがある人

全体[n=992]			男性[n=440]			女性[n=552]		
順位	項目	%	順位	項目	%	順位	項目	%
1位	性格	33.5	1位	性格	32.0	1位	性格	34.6
2位	行動パターン	22.6	2位	生活習慣	23.6	2位	食の好みや好きな味付け	23.0
3位	生活習慣	21.1	3位	行動パターン	22.5	3位	行動パターン	22.6
4位	口ぐせ	20.8	4位	口ぐせ	19.1	4位	口ぐせ	22.1
5位	食の好みや好きな味付け	19.9	5位	価値観や人生観	16.6	5位	生活習慣	19.0
6位	価値観や人生観	17.6	6位	食の好みや好きな味付け	15.9	6位	価値観や人生観	18.5
7位	怒り口調	14.3	7位	怒り口調	13.4	7位	怒り口調	15.0
8位	得意なこと・苦手なこと	8.3	8位	笑い方	8.2	8位	得意なこと・苦手なこと	8.5
9位	笑い方	8.0	9位	得意なこと・苦手なこと	8.0	9位	笑い方	7.8
10位	相槌の打ち方	4.8	10位	趣味	5.7	10位	相槌の打ち方	5.4

■親との関係性の変化を感じたこと

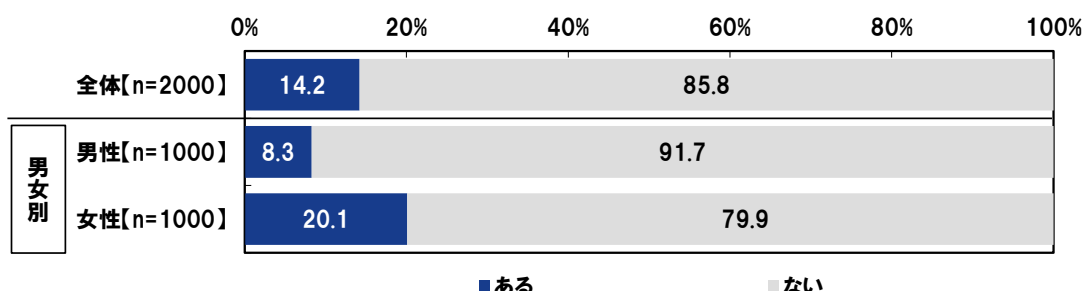
「守られる立場から、守るほうになった」「何かの決断を委ねられるようになった」

「親の苦勞がわかって、自分が優しくなった」「家の管理や決め事が自分になってきた」など

大人になってから“親との関係性が変わった”と感じたことがあるかを聞いたところ、「ある」は14.2%、「ない」は85.8%と、大半は関係性は変化していないと感じていることがわかりました。

男女別にみると、「ある」と回答した人の割合は、男性 8.3%、女性 20.1%と、男性と比べて女性のほうが11.8ポイント高くなりました。

◆大人になってから“親との関係性が変わった”と感じたことがあるか



大人になってから“親との関係性が変わった”と感じたことがある人（284名）に、大人になってから“親との関係性が変わった”と感じたことを聞いたところ、1位「親に対する気持ちの変化」（59名）、2位「仲の良さ・距離感の変化」（53名）、3位「会話の変化」（44名）となりました。

回答の詳細をみると、「親子喧嘩が減った（40代男性）」、「家の管理や決め事が自分になってきた（50代女性）」、「守られる立場から、守るほうになった（60代女性）」、「自分の生き方を認めてもらえるようになった（40代男性）」、「何かの決断を委ねられるようになった（40代女性）」、「親の苦勞がわかって、自分が優しくなった（40代女性）」といった回答がみられました。距離ができたことでお互いに客観視できるようになったり、同じ親の立場になって理解が深まったりすることで親子間の関係性が変わったことを実感することが多いようです。

◆大人になってから“親との関係性が変わった”と感じたこと（自由回答形式）※上位7位までを表示、回答の詳細は抜粋して表示 対象：大人になってから“親との関係性が変わった”と感じたことがある人

全体【n=284】

		名	回答の詳細(抜粋)
1位	親に対する気持ちの変化	59	経済的に自立して負い目がなくなった（60代男性） 親の心配をするようになった（40代女性） 最近もう少し親の支援を積極的にしようと思った（40代男性） 母親が耳が遠くなり会話がしづらくなったが、優しくなれた（60代女性） 親に完璧を求めてはいけないうようになった（50代女性）
2位	仲の良さ・距離感の変化	53	親子喧嘩が減った（40代男性） 家を出てからお互い優しくなった（60代女性） 孫ができてからつながりができた気がする（40代女性） 友達同士のようにになった（50代女性） より適切な距離感になった（40代女性）
3位	会話の変化	44	生活のこと、お金のことなど話す機会が増えた（50代女性） 何でも話せるようになった（40代男性） 親と友達のように話ができるようになった（40代男性） 冷静に話し合えるようになった（50代男性）
4位	立場・役割の変化	43	お互いに対等な関係で思いやれるようになった（40代男性） 家の管理や決め事が自分になってきた（50代女性） 守られる立場から、守るほうになった（60代女性）
5位	親の子に対する接し方の変化	29	親のほうが、子どもは子ども、と考えてくれるようになった（60代女性） 自分の生き方を認めてもらえるようになった（40代男性） 何かの決断を委ねられるようになった（40代女性）
6位	子の親に対する接し方の変化	22	親の苦勞がわかって、自分が優しくなった（40代女性） 母親が買い物に出かける際に快くついていくことが多くなった（50代男性） 両親に干渉しなくなった（60代男性）
7位	親自身の変化	8	親がだんだん子どものようになっている（50代女性） 親が弱くなった（60代女性）

■おとなの親子の会話実態 大人になってから会話の内容は変わった？

大人になってから親と話す頻度が増えたこと

1位「健康・病気」2位「日常の出来事」3位「家族・親戚」、

大人になってから親と話す頻度が減ったこと

1位「自身の悩み」2位「旅行・レジャー」「ファッション」

■大人になってから、親と話したいと思っているが話せていないこと

1位「お金」2位「将来の計画」3位「自身の悩み」

大人になってからの親との会話について質問しました。

全回答者（2,000名）に、大人になってから、親と話す頻度が増えたことを聞いたところ、「健康・病気」（43.6%）が最も高くなりました。大人になるにつれ、共感できることが増えるほか、将来に備えて、親の健康状態を把握しておくために、自然と健康に関する話題が増えている親子が多いのかもしれませんが。次いで、「日常の出来事」（37.1%）、「家族・親戚」（31.4%）、「子ども（※親にとっての孫）」（29.3%）、「食事・グルメ」（22.1%）となりました。

反対に、大人になってから、親と話す頻度が減ったことを聞いたところ、最も高くなったのは「自身の悩み」（7.8%）で、「旅行・レジャー」「ファッション」（いずれも7.2%）、「将来の計画」（6.9%）、「芸能・音楽」（6.5%）が続きました。

大人になってから、親と話したいと思っているが話せていないことを聞いたところ、「お金」（11.5%）がTOPとなりました。親の年金や資産、自身の経済状況について、話したいと思いつつも、話すことに遠慮がちになっている親子は少なくないようです。次いで、「将来の計画」（10.9%）、「自身の悩み」（8.0%）、「健康・病気」（7.8%）、「親の悩み」（6.2%）となりました。

◆大人になってからの、親との会話の内容（複数回答形式）※それぞれの上位10位までを表示
全体[n=2000]

	親と話す頻度が増えたこと	%		親と話す頻度が減ったこと	%		親と話したいと思っているが話せていないこと	%
1位	健康・病気	43.6	1位	自身の悩み	7.8	1位	お金	11.5
2位	日常の出来事	37.1	2位	旅行・レジャー	7.2	2位	将来の計画	10.9
3位	家族・親戚	31.4		ファッション	7.2	3位	自身の悩み	8.0
4位	子ども（※親にとっての孫）	29.3	4位	将来の計画	6.9	4位	健康・病気	7.8
5位	食事・グルメ	22.1	5位	芸能・音楽	6.5	5位	親の悩み	6.2
6位	思い出	21.9	6位	友人	6.0	6位	家族・親戚	5.4
7位	ニュース	21.2	7位	仕事	5.9	7位	子ども（※親にとっての孫）	4.0
8位	お金	21.0	8位	ドラマ	5.1	8位	日常の出来事	3.9
9位	親の悩み	17.0	9位	趣味	5.0	9位	思い出	3.6
10位	近所の人	16.2	10位	スポーツ	4.9	10位	住まい	3.1

■親から教わって感謝していること

男性1位「礼儀・作法に関すること」、女性1位「料理・食に関すること」

全回答者（2,000名）に、親から教わって感謝していることを聞いたところ、1位は「料理・食に関すること」、2位「礼儀・作法に関すること」、3位「お金に関すること」、4位「優しさ、思いやり」、5位「感謝の心」となりました。

男女別にみると、男性では1位「礼儀・作法に関すること」、2位「お金に関すること」、3位「生き方・人生に関すること」「優しさ、思いやり」となり、女性では1位「料理・食に関すること」、2位「礼儀・作法に関すること」、3位「お金に関すること」、4位「優しさ、思いやり」、5位「感謝の心」でした。「料理・食に関すること」は、女性ではダントツとなった一方、男性ではTOP10にランクインしませんでした。

◆親から教わって感謝していること（自由回答形式）※上位10位までを表示

全体【n=2000】

		名
1位	料理・食に関すること	119
2位	礼儀・作法に関すること	79
3位	お金に関すること	59
4位	優しさ、思いやり	51
5位	感謝の心	42
6位	人間関係に関すること	41
7位	生き方・人生に関すること	34
8位	節約・節制に関すること	28
9位	教育・勉強の大切さ	26
10位	生活全般に関すること	25
	挨拶	25

男性【n=1000】

		名
1位	礼儀・作法に関すること	28
2位	お金に関すること	26
3位	生き方・人生に関すること	22
	優しさ、思いやり	22
5位	人間関係に関すること	21
6位	感謝の心	18
7位	教育・勉強の大切さ	17
8位	節約・節制に関すること	14
9位	挨拶	12
	仕事に関すること	12

女性【n=1000】

		名
1位	料理・食に関すること	108
2位	礼儀・作法に関すること	51
3位	お金に関すること	33
4位	優しさ、思いやり	29
5位	感謝の心	24
6位	人間関係に関すること	20
7位	生活全般に関すること	18
8位	節約・節制に関すること	14
9位	挨拶	13
	常識	13

■親の尊敬できるところ TOP3 「優しさ、思いやり」「真面目さ、誠実さ」「仕事、働く姿勢」

親の尊敬できるところを聞いたところ、1位「優しさ、思いやり」、2位「真面目さ、誠実さ」、3位「仕事、働く姿勢」、4位「育ててくれたこと」、5位「我慢強さ、忍耐強さ」となりました。

男女別にみると、男女ともに「優しさ、思いやり」が1位となり、男性では2位「真面目さ、誠実さ」、3位「育ててくれたこと」、4位「仕事、働く姿勢」、5位「我慢強さ、忍耐強さ」、女性では「優しさ、思いやり」と同数で「真面目さ、誠実さ」も1位となり、3位「仕事、働く姿勢」、4位「自立・自活」、5位「我慢強さ、忍耐強さ」となりました。また、女性では「料理、食育」が6位に挙がりました。

◆親の尊敬できるところ（自由回答形式）※上位10位までを表示

全体【n=2000】

		名
1位	優しさ、思いやり	106
2位	真面目さ、誠実さ	101
3位	仕事、働く姿勢	80
4位	育ててくれたこと	52
5位	我慢強さ、忍耐強さ	47
6位	自立・自活	41
7位	節約・節制・儉約	32
8位	金銭感覚、金銭管理	27
9位	努力家、頑張り屋	24
	料理、食育	24

男性【n=1000】

		名
1位	優しさ、思いやり	57
2位	真面目さ、誠実さ	52
3位	育ててくれたこと	37
4位	仕事、働く姿勢	32
5位	我慢強さ、忍耐強さ	22
6位	節約・節制・儉約	17
7位	自立・自活	13
8位	金銭感覚、金銭管理	10
	健康	10
10位	堅実、地道	9
	長生き	9

女性【n=1000】

		名
1位	優しさ、思いやり	49
	真面目さ、誠実さ	49
3位	仕事、働く姿勢	48
4位	自立・自活	28
5位	我慢強さ、忍耐強さ	25
6位	料理、食育	22
7位	努力家、頑張り屋	20
8位	金銭感覚、金銭管理	17
9位	育ててくれたこと	15
	節約・節制・儉約	15

■親の見習いたくないところ TOP3 「性格」「人間関係・コミュニケーション」「生活習慣」

全回答者（2,000名）に、親の見習いたくないところを聞いたところ、1位「性格」、2位「人間関係・コミュニケーション」、3位「生活習慣」、4位「価値観・人生観」、5位「金銭面」となりました。

回答の詳細をみると、1位の「性格」では「見栄を張りすぎる（50代男性）」、「意地っ張りだが意外といい加減（60代女性）」、「頑固で人の助言を受け入れない（40代男性）」、2位の「人間関係・コミュニケーション」では「おせっかいが度を越している（50代女性）」、「世間体を気にしすぎる（50代女性）」、3位の「生活習慣」では「物を捨てることができない（50代女性）」、「あまり身なりに気を使わない（50代女性）」といった回答が挙げられました。

◆親の見習いたくないところ（自由回答形式）

※上位7位までを表示、回答の詳細は抜粋して表示

全体【n=2000】

		名	回答の詳細(抜粋)	
1位	性格	515	見栄を張りすぎる（50代男性） 気が弱くお人よし（60代女性） 真面目すぎる（50代男性）	意地っ張りだが意外といい加減（60代女性） 頑固で人の助言を受け入れない（40代男性） お天気屋（60代女性）
2位	人間関係・コミュニケーション	145	愚痴や悪口ばかり言っている（40代女性） おせっかいが度を越している（50代女性） 世間体を気にしすぎる（50代女性）	誰に対しても干渉しすぎる（40代男性） 人に話しかけるのが苦手（50代女性） おしゃべりが過ぎる（40代男性）
3位	生活習慣	97	片付けが苦手（50代女性） あまり身なりに気を使わない（50代女性）	物を捨てることができない（50代女性） 賞味期限切れ食品を食べる（50代女性）
4位	価値観・人生観	70	新しいことを取り入れられない（40代女性） 何でも自分が正しいと思っている（60代女性）	偏見を持った見方をする（50代女性） 昔の価値観から脱却できない（60代男性）
5位	金銭面	64	節約しすぎる（50代女性） 必要のないお金を深く考えずに使う（40代女性）	現金主義、リスクがあることを避ける（40代男性） 無料に弱い（50代女性）
6位	健康面・食生活	49	体調が悪いのに我慢する（40代女性） 運動不足（50代男性）	お酒を飲みすぎる（50代女性） 病院嫌い（60代女性）
7位	家族関係	23	亭主関白（40代男性）	過保護気味（40代女性）

■時代錯誤・ハラスメントだと思った親の発言・行動

「旦那さんに家事を頼んだら怒られた」「会社を辞めるのは心が弱いからと言われた」など

全回答者（2,000 名）に、時代錯誤・ハラスメントだと思った親の発言・行動を聞いたところ、「妻の姓を名乗ることに不快感を示したこと（50 代男性）」、「会社を辞めるのは心が弱いからと言われたこと（40 代男性）」、「ピアスを開けようとした時に、親の産んだ体に傷をつけるなんて！と怒られたとき（50 代女性）」といった価値観を押し付けるような言動が多くみられました。

また、「旦那さんに家事を頼んだら怒られた（50 代女性）」、「長男が親の面倒をみる（60 代男性）」といった役割を押し付けるような言動や「思春期の娘に対して『太った？』と聞いてきたこと（40 代女性）」、「近所の人に私が遠方に引っ越したことを話していた（40 代女性）」といったデリカシーのない発言、そのほか「橋の下から拾われてきたという嘘（50 代男性）」、「親戚の過去の評判をいつまでも信じている（60 代男性）」、「ホームステイしたかったが日本が一番と言って行かせてくれなかったこと（60 代女性）」といった回答もみられました。

◆時代錯誤・ハラスメントだと思った親の発言・行動（自由回答形式）※抜粋して表示

全体[n=2000]

《価値観の押し付け》

- ・ FIRE(早期リタイア) への理解のなさ (50代男性)
- ・ ネットショッピングはするな (40代男性)
- ・ 出産の際は騒いではいけない (40代女性)
- ・ 会社を辞めるのは心が弱いからと言われたこと (40代男性)
- ・ ピアスを開けようとした時に、親の産んだ体に傷をつけるなんて！と怒られたとき (50代女性)
- ・ 年賀状を出すのをやめたら、それは相手に失礼だから出さないと言われた (50代女性)
- ・ 結婚を急かす (40代男性)
- ・ 化粧をすると肌が黒くなる (50代女性)
- ・ 妻の姓を名乗ることに不快感を示したこと (50代男性)

《役割の押し付け》

- ・ 子どもを産まないと一人前じゃない (50代女性)
- ・ 旦那さんに家事を頼んだら怒られた (50代女性)
- ・ 長男が親の面倒をみる (60代男性)

《デリカシーのなさ》

- ・ 思春期の娘に対して「太った？」と聞いてきたこと (40代女性)
- ・ 父の冗談での容姿の冷やかし (60代女性)
- ・ 近所の人に私が遠方に引っ越したことを話していた (40代女性)

《その他》

- ・ 橋の下から拾われてきたという嘘 (50代男性)
- ・ 親戚の過去の評判をいつまでも信じている (60代男性)
- ・ ホームステイしたかったが日本が一番と言って行かせてくれなかったこと (60代女性)

■現在、親と一緒に楽しんでいること 1位「食事、グルメ」2位「旅行」3位「スポーツ観戦」

全回答者（2,000名）に、現在、親と一緒に楽しんでいることを聞いたところ、「食事（外食・中食・内食）、グルメ」がダントツとなりました。次いで、2位「旅行」、3位「スポーツ観戦」、4位「おしゃべり」、5位「ガーデニング、家庭菜園、農作業」となりました。

男女別にみると、男女ともに1位は「食事（外食・中食・内食）、グルメ」、2位は「旅行」となりました。以降、男性では3位「子ども・孫（孫・ひ孫）のこと」、4位「ガーデニング、家庭菜園、農作業」、5位「おしゃべり」、女性では3位「スポーツ観戦」、4位「おしゃべり」、5位「ガーデニング、家庭菜園、農作業」が続きました。

◆現在、親と一緒に楽しんでいること（自由回答形式）※上位10位までを表示

全体[n=2000]

		名
1位	食事(外食・中食・内食)、グルメ	153
2位	旅行	64
3位	スポーツ観戦	38
4位	おしゃべり	35
5位	ガーデニング、家庭菜園、農作業	33
6位	子ども・孫(孫・ひ孫)のこと	30
7位	テレビ視聴	24
8位	スポーツ	22
9位	ドラマ鑑賞	18
10位	ペット	14
	買い物	14

男性[n=1000]

		名
1位	食事(外食・中食・内食)、グルメ	67
2位	旅行	20
3位	子ども・孫(孫・ひ孫)のこと	16
4位	ガーデニング、家庭菜園、農作業	13
5位	おしゃべり	12
6位	スポーツ観戦	10
7位	テレビ視聴	9
8位	ペット	8
	スポーツ	8
10位	音楽鑑賞、楽器演奏	6

女性[n=1000]

		名
1位	食事(外食・中食・内食)、グルメ	86
2位	旅行	44
3位	スポーツ観戦	28
4位	おしゃべり	23
5位	ガーデニング、家庭菜園、農作業	20
6位	テレビ視聴	15
7位	スポーツ	14
	子ども・孫(孫・ひ孫)のこと	14
9位	推し活	13
	ドラマ鑑賞	13

■親に勧めたいこと 1位「健康的な食事」2位「断捨離・片付け」3位「脳トレ」

50代女性では「運転免許証の返納」が5位に

全回答者（2,000名）に、親に勧めたいことを聞いたところ、1位「健康的な食事」（25.9%）、2位「断捨離・片付け」（20.9%）、3位「脳トレ」（19.8%）となりました。今後のために、心身の健康維持、身の回りの整理をしてほしいと感じている人が多いのではないのでしょうか。

男女別にみると、男女ともに1位は「健康的な食事」（男性 23.7%、女性 28.0%）、男性では2位「脳トレ」（15.6%）、3位「断捨離・片付け」（14.7%）、女性では2位「断捨離・片付け」（27.1%）、3位「脳トレ」（24.0%）となりました。

◆親に勧めたいこと（複数回答形式）※上位10位までを表示

全体【n=2000】			男性【n=1000】			女性【n=1000】		
		%			%			%
1位	健康的な食事	25.9	1位	健康的な食事	23.7	1位	健康的な食事	28.0
2位	断捨離・片付け	20.9	2位	脳トレ	15.6	2位	断捨離・片付け	27.1
3位	脳トレ	19.8	3位	断捨離・片付け	14.7	3位	脳トレ	24.0
4位	運動・スポーツ	15.4	4位	運動・スポーツ	14.0	4位	運動・スポーツ	16.8
5位	遺言書の作成	11.7	5位	遺言書の作成	9.5	5位	遺言書の作成	13.8
6位	運転免許証の返納	8.3	6位	運転免許証の返納	6.3	6位	運転免許証の返納	10.3
7位	コミュニティ・サークルへの参加	8.1	7位	コミュニティ・サークルへの参加	6.3	7位	コミュニティ・サークルへの参加	9.8
8位	節約	4.5	8位	資産運用	4.1	8位	節約	5.7
9位	資産運用	3.8	9位	節約	3.3	9位	習い事	3.9
10位	習い事	3.4	10位	習い事	2.8	10位	資産運用	3.4

男女・年代別にみると、50代以下の男性では「運動・スポーツ」（40代男性 17.1%、50代男性 15.9%）が2位に挙がりました。また、50代女性では「断捨離・片付け」（29.9%）が1位、「運転免許証の返納」（15.0%）が5位に挙がりました。

◆親に勧めたいこと（複数回答形式）※上位5位までを表示

40代男性【n=333】			50代男性【n=334】			60代男性【n=333】		
		%			%			%
1位	健康的な食事	23.1	1位	健康的な食事	22.5	1位	健康的な食事	25.5
2位	運動・スポーツ	17.1	2位	運動・スポーツ	15.9	2位	脳トレ	17.1
3位	脳トレ	15.0	3位	脳トレ	14.7	3位	断捨離・片付け	16.8
4位	断捨離・片付け	13.5	4位	断捨離・片付け	13.8	4位	運動・スポーツ	9.0
5位	遺言書の作成	10.8	5位	遺言書の作成	9.6	5位	遺言書の作成	8.1

40代女性【n=333】			50代女性【n=334】			60代女性【n=333】		
		%			%			%
1位	健康的な食事	28.8	1位	断捨離・片付け	29.9	1位	健康的な食事	27.9
2位	断捨離・片付け	27.9	2位	健康的な食事	27.2	2位	脳トレ	26.1
3位	脳トレ	24.9	3位	脳トレ	21.0	3位	断捨離・片付け	23.4
4位	運動・スポーツ	21.9	4位	遺言書の作成	16.2	4位	運動・スポーツ	14.1
5位	遺言書の作成	15.0	5位	運転免許証の返納	15.0	5位	遺言書の作成	10.2

■理想の『おとなの親子』だと思う芸能人親子は？

「高橋 英樹さん&高橋 真麻さん」「関根 勤さん&関根 麻里さん」が3年連続1位・2位！

理由は「高橋 英樹さん&高橋 真麻さん」では「お互いに尊重し合い、程良い距離感を保っている」、
「関根 勤さん&関根 麻里さん」では「親子間でコミュニケーションがとれている」など

全回答者（2,000名）に、自身が理想とする『おとなの親子』の関係を築いていると思う芸能人親子（1組）を聞いたところ「高橋 英樹さん&高橋 真麻さん」が1位となり、次いで、2位「関根 勤さん&関根 麻里さん」、3位「明石家 さんまさん&IMALUさん」、4位「渡辺 謙さん&杏さん」、5位「三浦 友和さん&三浦 祐太朗さん・三浦 貴大さん」となりました。

理想の芸能人親子として挙げた理由をみると、「高橋 英樹さん&高橋 真麻さん」では「お互いに尊重し合い、程良い距離感を保っている」「しっかりと物を言える関係性っぽいので」「お互いしっかり自立しつつ、仲が良い」、「関根 勤さん&関根 麻里さん」では「親子間でコミュニケーションがとれている」「それぞれのライフスタイルを尊重しているようだから」、「明石家 さんまさん&IMALUさん」では「適度に距離が保たれているが楽しそう」「どちらも依存していない」といった回答がありました。親子仲が良好でありながらも、お互いを尊重し、適度な距離を保っている親子像を理想としている人が多いようです。

過去の調査結果とあわせてみると、3年連続で「高橋 英樹さん&高橋 真麻さん」が1位、「関根 勤さん&関根 麻里さん」が2位、「渡辺 謙さん&杏さん」が4位となり、2年連続で「明石家 さんまさん&IMALUさん」が3位でした。また、「小泉 純一郎さん&小泉 孝太郎さん」親子が初のTOP10入りとなりました。

◆自身が理想とする『おとなの親子』の関係を築いていると思う芸能人親子（1組）（自由回答形式）※上位10位までを表示 全体【n=2000】

		名	理由(抜粋)
1位	高橋 英樹&高橋 真麻	171	お互いに尊重し合い、程良い距離感を保っている / しっかりと物を言える関係性っぽいので / お互いしっかり自立しつつ、仲が良い
2位	関根 勤&関根 麻里	57	親子間でコミュニケーションがとれている / それぞれのライフスタイルを尊重しているようだから
3位	明石家 さんま & IMALU	31	適度に距離が保たれているが楽しそう / どちらも依存していない
4位	渡辺 謙 & 杏	23	お互いに独立しつつ仲が良い、ちょうど良い距離感
5位	三浦 友和 & 三浦 祐太朗・三浦 貴大	16	自立しているし、信頼し合っている
6位	ヒロミ & 小園 凌央	10	それぞれが別分野で活躍しているから
	木村 拓哉 & Cocomi・Kōki	10	娘がパパを大好き
8位	藤岡 弘、& 天翔 愛・藤岡 真威人・天翔 天音・藤岡 舞衣	8	親の威厳がありつつ、子どもが親を慕っているところ
9位	小泉 純一郎 & 小泉 孝太郎	7	親とは別の仕事に就き、自分のやりたい仕事を頑張っている
10位	浜田 雅功 & ハマ・オカモト	6	各々がリスペクトし合いながらも、干渉することなく良い関係を築いている印象がある

【2023年調査・2024年調査】

◆自身が理想とする『おとなの親子』の関係を築いていると思う芸能人親子（1組）（自由回答形式）※上位5位までを表示

2023年調査【n=2000】

		名
1位	高橋 英樹・高橋 真麻	156
2位	関根 勤・関根 麻里	83
3位	ヒロミ・小園 凌央	34
4位	渡辺 謙 & 杏	25
5位	明石家 さんま & IMALU	18

2024年調査【n=2000】

		名
1位	高橋 英樹 & 高橋 真麻	177
2位	関根 勤 & 関根 麻里	74
3位	明石家 さんま & IMALU	29
4位	渡辺 謙 & 杏	24
5位	ヒロミ & 小園 凌央	16

第2章：『おとなの親子』のコミュニケーション頻度

■『おとなの親子』の居住状況 「同居親子」は23%、「別居親子」は76%

全回答者（2,000名）に、親との居住状況を聞いたところ、「同居親子」は22.6%、「別居親子」は76.2%、「その他」は1.2%でした（※）。

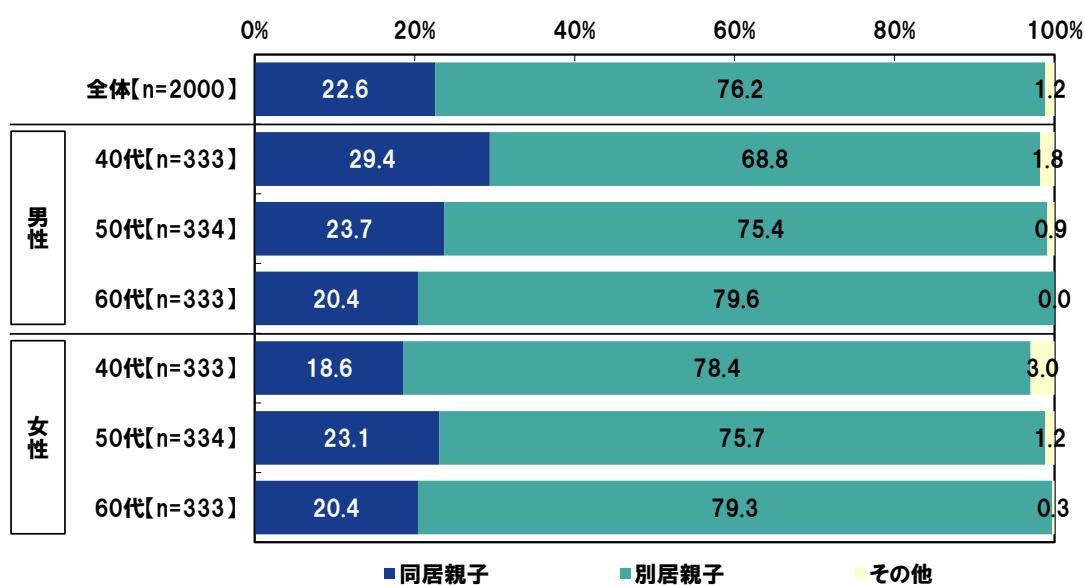
男女・年代別にみると、男性では年代が高くなるとともに、「同居親子」（40代29.4%、50代23.7%、60代20.4%）の割合が低くなる傾向がみられました。他方、女性では「同居親子」の割合は50代（23.1%）が最も高くなりました。

※同居親子：別居の親がいない同居している親子。親の一方がいない場合を含む。

別居親子：同居の親がいない別居している親子。親の一方がいない場合を含む。

その他：同居の親と別居の親がいる場合。

◆親との居住状況（単一回答結果より算出）



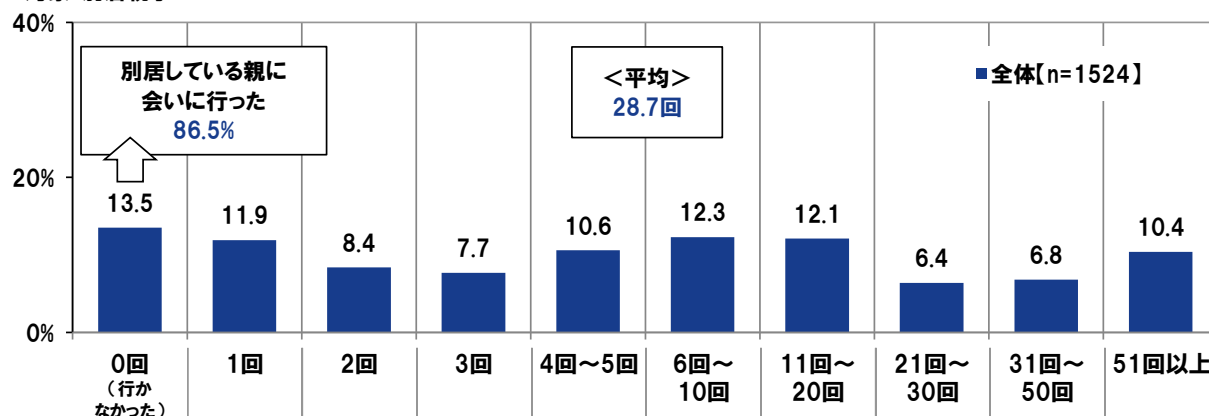
■おとなの別居親子のコミュニケーション実態 「昨年、1回も親に会いに行かなかった」14%

次に、昨年の親子間の関わりやコミュニケーションの頻度について質問しました。

別居親子（1,524名）に、昨年、別居している親に会いに行った頻度を聞いたところ、平均は28.7回、「0回（行かなかった）」は13.5%となり、別居している親に会いに行った人の割合は86.5%でした。

◆昨年にどのくらいの頻度で別居している親に会いに行ったか（自由回答形式：数値／年に__回くらい）

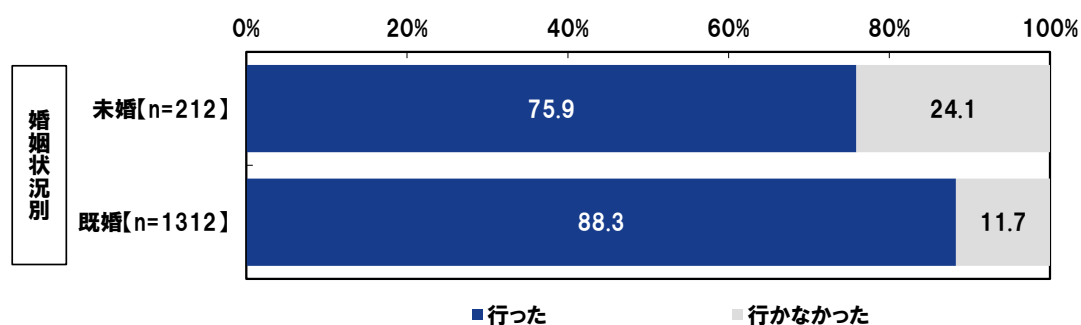
対象：別居親子



昨年、別居している親に会いに行った割合を婚姻状況別にみると、「行かなかった」は未婚者では24.1%、既婚者では11.7%となり、既婚者と比較して、未婚者が12.4ポイント高くなりました。

◆昨年に別居している親に会いに行ったか

対象：別居親子



■親との食事について 「昨年、別居している親と一緒に食事をしなかった」60代男性では4割

別居親子（1,524名）に、昨年、親と一緒に食事をしたか聞いたところ、「した」は72.7%、「しなかった」は27.3%でした。

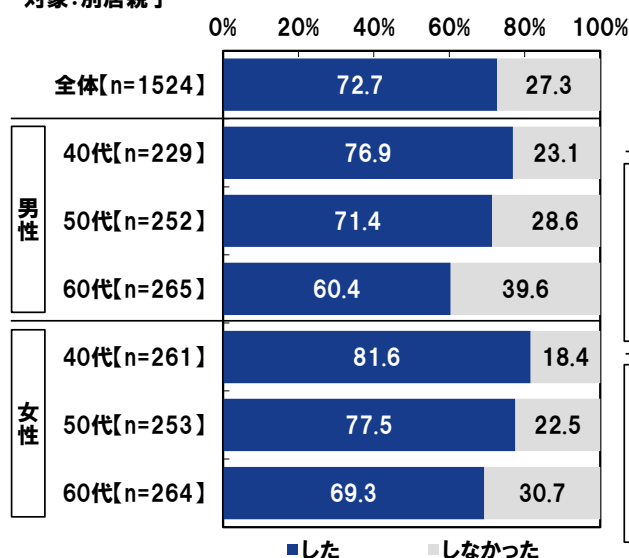
男女・年代別にみると、男女ともに、「しなかった」は年代が上がるにつれ高くなる傾向にあり、60代男性（39.6%）では4割でした。

また、昨年、親と一緒に食事をした人（1,108名）に、どのくらいの頻度で食事をしたか聞いたところ、平均は19.7回となりました。

男女・年代別にみると、一緒に食事をした割合は年代が上がるにつれ低くなる傾向がみられた一方、平均回数は男女ともに年代が上がるにつれ多くなる傾向がみられ、50代以上の女性（50代23.3回、60代26.5回）で特に多くなりました。

◆昨年に親と一緒に食事をしたか

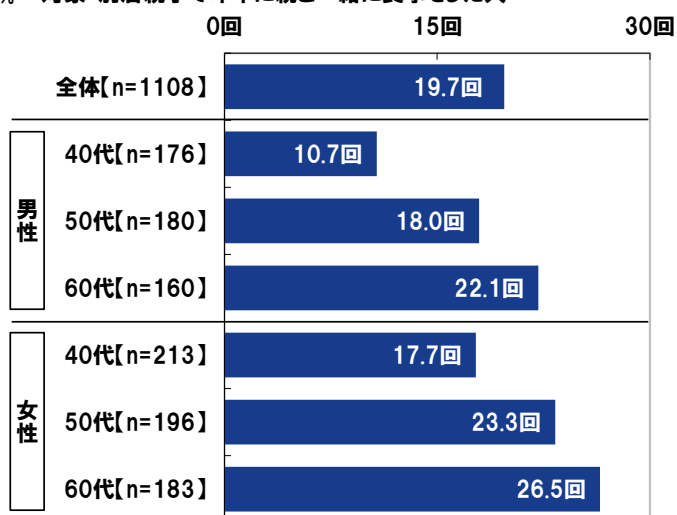
対象：別居親子



◆昨年にどのくらいの頻度で親と一緒に食事をしたか

（自由回答形式：数値／年に__回くらい）※平均を表示

対象：別居親子で昨年に親と一緒に食事をした人



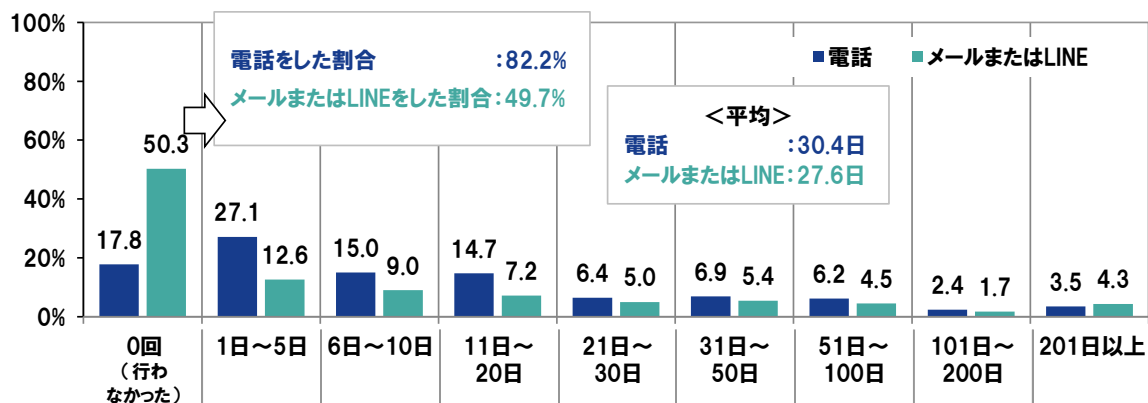
■おとなの親子では電話が主流？

別居の親とのコミュニケーション実施率 「電話」は82%、「メールまたはLINE」は50%にとどまる

別居親子（1,524名）に、【電話】【メールまたはLINE】によるコミュニケーションについて、昨年に親とどのくらいの頻度で行ったかを聞いたところ、【電話】では平均30.4日、「0日（行わなかった）」は17.8%となり、【メールまたはLINE】では平均27.6日、「0日（行わなかった）」は50.3%と、半数が親子間でメールまたはLINEのやり取りをしなかったことがわかりました。

【電話】と【メールまたはLINE】を比較すると、行った人の割合は【メールまたはLINE】（49.7%）と比べて【電話】（82.2%）のほうが32.5ポイント高くなりました。

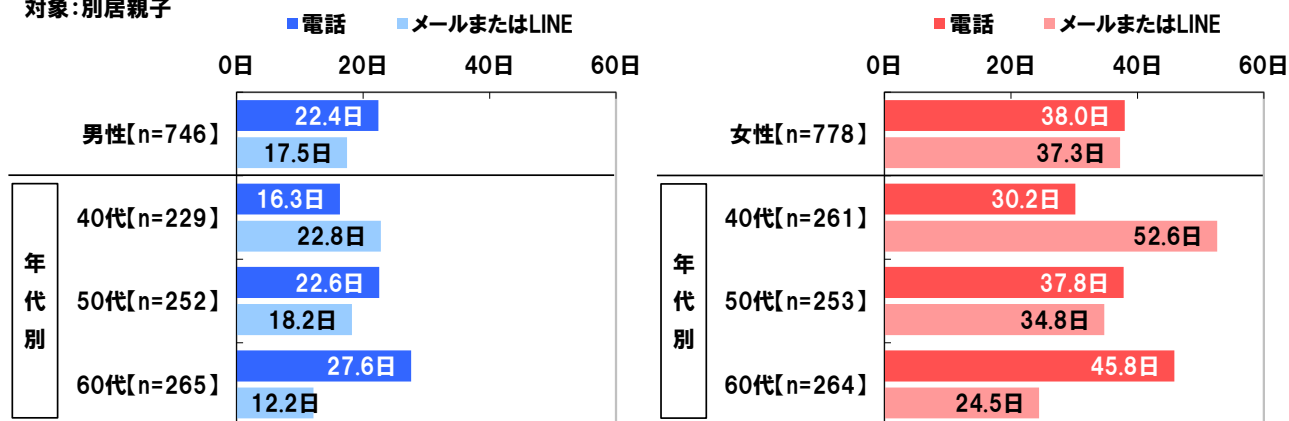
◆昨年に親とどのくらいの頻度で行ったか（各自由回答形式：数値／年に___日くらい）
対象：別居親子（n=1524）



男女・年代別にみると、平均日数は、【電話】では男性22.4日、女性38.0日、【メールまたはLINE】では男性17.5日、女性37.3日と、いずれも女性のほうが15日以上多くなりました。また、男女ともに、年代が上がるにつれ【電話】の平均日数が多くなり、【メールまたはLINE】の平均日数が少なくなる傾向がみられました。40代女性では【メールまたはLINE】（52.6日）が50日以上となりました。

◆昨年に親と行った頻度（平均日数）

対象：別居親子



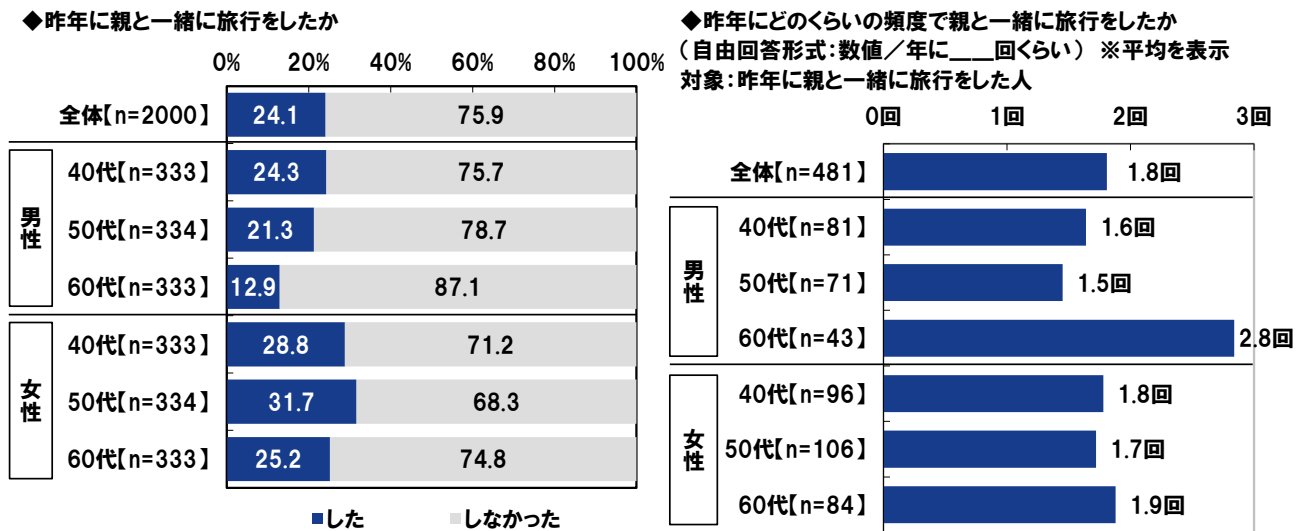
■昨年にした親との旅行 平均は 1.8 回/年、最多は 30 回/年！

全回答者（2,000 名）に、昨年に親と一緒に旅行をしたかを聞いたところ、「した」は 24.1%、「しなかった」は 75.9%となりました。

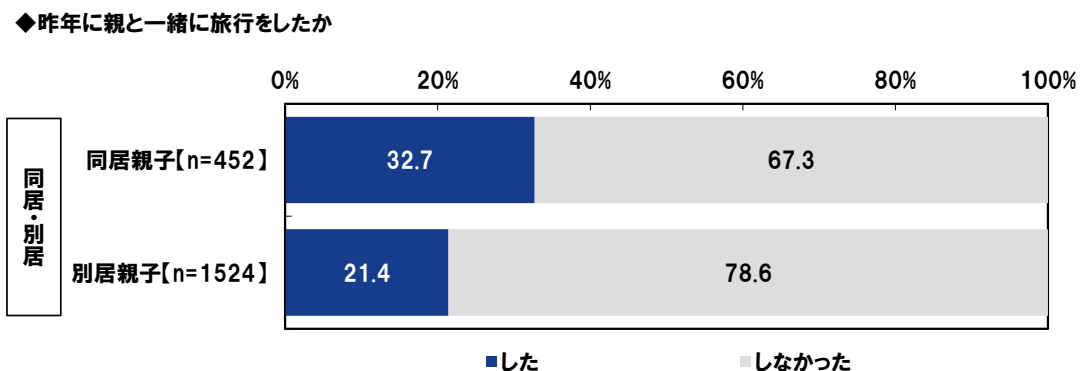
男女・年代別にみると、男性では年代が上がるにつれ「した」（40代 24.3%、50代 21.3%、60代 12.9%）が下降する傾向にありました。女性では最も高くなったのは 50代（31.7%）でした。

昨年に親と一緒に旅行をした人（481 名）に、どのくらいの頻度で旅行をしたか聞いたところ、平均は 1.8 回となりました。また、最も回数が多かった回答は 30 回でした。

男女・年代別にみると、60代男性で平均 2.8 回と、最も多くなりました。



同居親子と別居親子についてみると、昨年に親と一緒に旅行をした人の割合は、同居親子では 32.7%、別居親子では 21.4%となり、別居親子と比較して同居親子が 10 ポイント以上高くなりました。

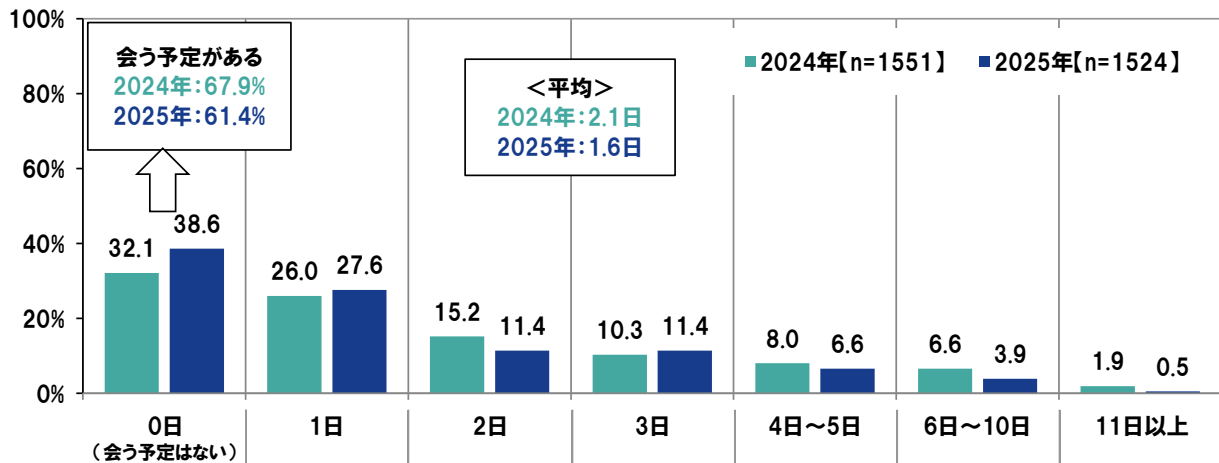


■「今年の年末年始に親に会う予定がある」別居親子の62%、昨年より7ポイントダウン
インバウンド需要や物価高が影響か

別居親子（1,524 名）に、今年の年末年始に親に会う予定はあるかを聞いたところ、「会う予定はない」は38.6%となり、会う予定がある人の割合は61.4%、顔を合わせる予定の日数の平均は1.6日でした。

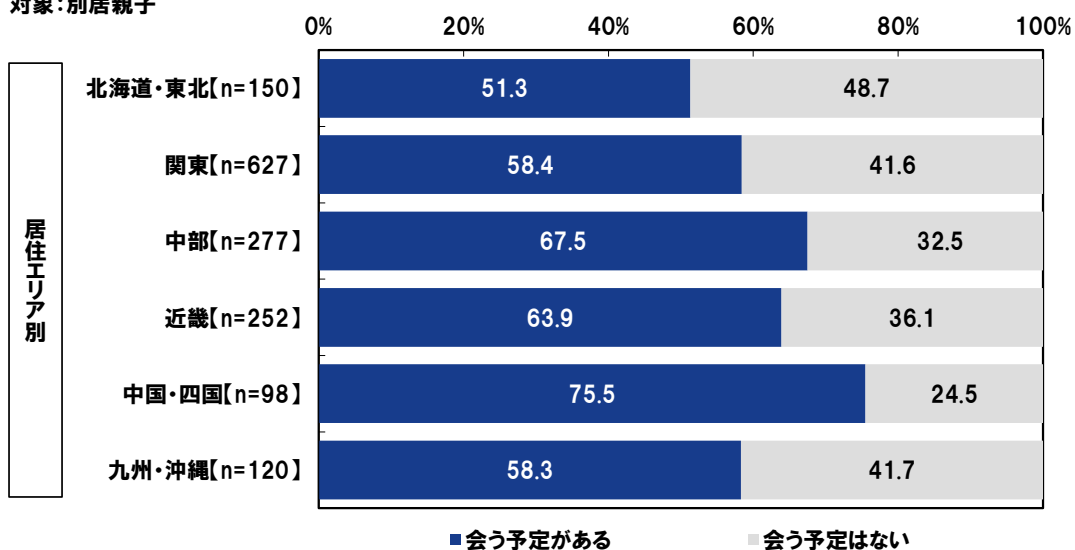
前回の調査結果と比較すると、会う予定がある人の割合（前回調査67.9%→今回調査61.4%）は6.5ポイント下降しました。コロナ禍は収束したものの、インバウンド需要や物価高を理由とする宿泊費の高騰などが離れて暮らすおとなの親子に影響しているのかもしれません。

◆今年の年末年始に親に会う予定はあるか（自由回答形式：数値／顔を合わせる日数は__日くらい）対象：別居親子



今年の年末年始に親に会う予定がある割合を居住エリア別にみると、最も高くなったのは中国・四国（75.5%）で7割半となりました。一方、北海道・東北（51.3%）、関東（58.4%）、九州・沖縄（58.3%）では50%台にとどまりました。

◆今年の年末年始に親に会う予定はあるか
対象：別居親子

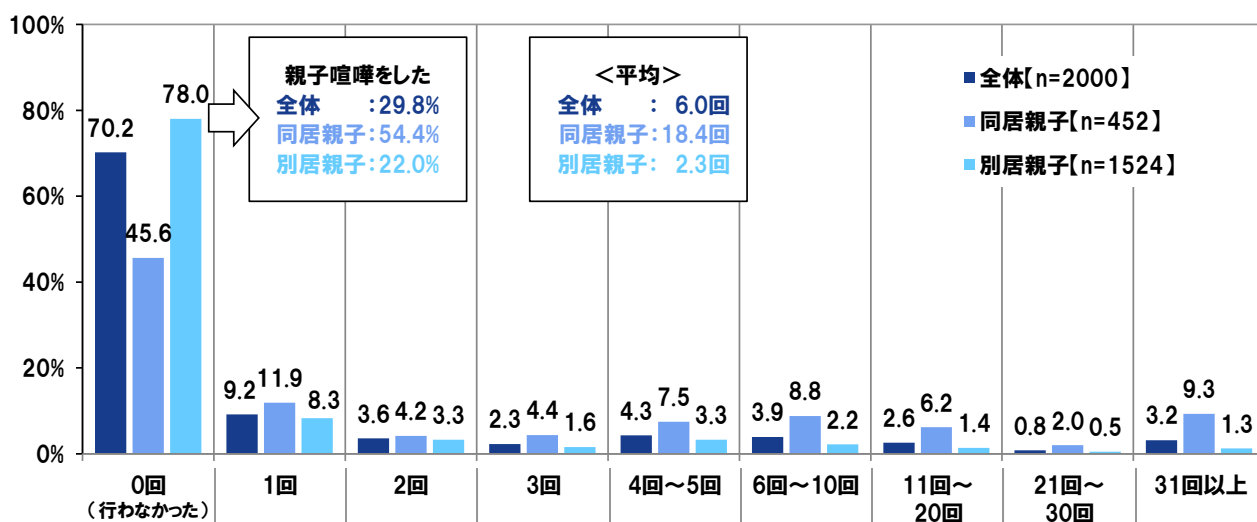


■おとなの親子の喧嘩実態 同居親子では平均 18 回/年、別居親子の 8 倍に

全回答者（2,000 名）に、昨年にとのくらいの頻度で親子喧嘩したかを聞いたところ、平均は 6.0 回、「0 回（行わなかった）」は 70.2%となり、親子喧嘩をした人の割合は 29.8%でした。

同居親子についてみると、「0 回（行わなかった）」は 45.6%で、親子喧嘩をした人の割合は 54.4%となり、平均は 18.4 回でした。他方、別居親子についてみると、「0 回（行わなかった）」は 78.0%で、親子喧嘩をした人の割合は 22.0%、平均は 2.3 回でした。同居親子と別居親子を比較すると、平均の回数は同居親子（18.4 回）では別居親子（2.3 回）の 8 倍となりました。同居親子では、生活を共にするなかで、プライバシーが守られていないことや生活習慣の違いなどが原因となり、互いにストレスが蓄積され、些細なことから親子喧嘩に発展してしまうことがあるのではないのでしょうか。

◆昨年にとのくらいの頻度で親子喧嘩をしたか（自由回答形式：数値／年に___回くらい）



第3章：『おとなの親子』のマネー事情

■マネー事情の情報共有について

「親の資産の内容（種類や資産額）を把握していない」7割強、
「親の収入や生活費を把握していない」6割半、
「自分の収入や資産の内容（種類や資産額）を親に伝えていない」8割強

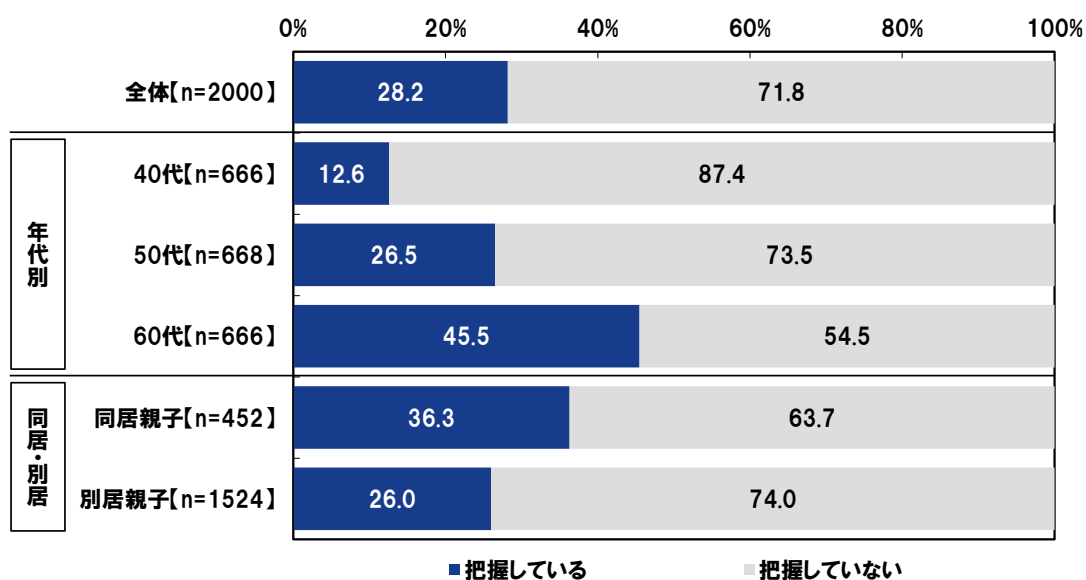
全回答者（2,000名）に、親子間での家計状況や資産状況に関する情報共有について質問しました。

まず、親の資産の内容（種類や資産額）を把握しているか聞いたところ、「把握している」は28.2%、「把握していない」は71.8%となりました。

年代別にみると、「把握している」（40代12.6%、50代26.5%、60代45.5%）は年代が上がるにつれ高くなる傾向がみられました。

同居親子と別居親子を比較すると、「把握している」（同居親子36.3%、別居親子26.0%）は同居親子が10.3ポイント高くなりました。

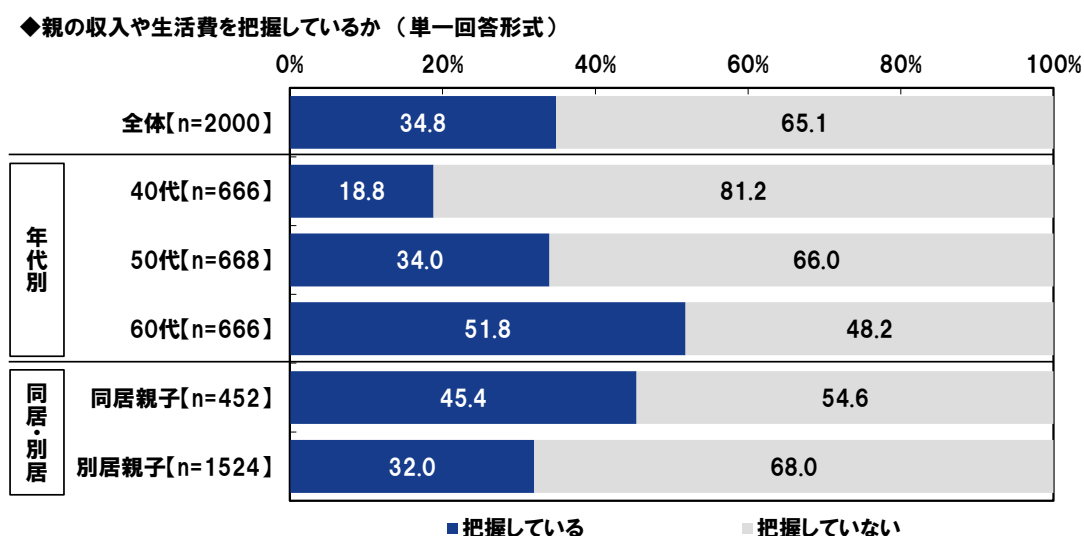
◆親の資産の内容(種類や資産額)を把握しているか（単一回答形式）



親の収入や生活費を把握しているか聞いたところ、「把握している」は 34.8%、「把握していない」は 65.1%となりました。

年代別にみると、「把握している」（40代 18.8%、50代 34.0%、60代 51.8%）は親の資産の内容と同様に、年代が上がるにつれ高くなる傾向がみられ、60代では半数以上となりました。

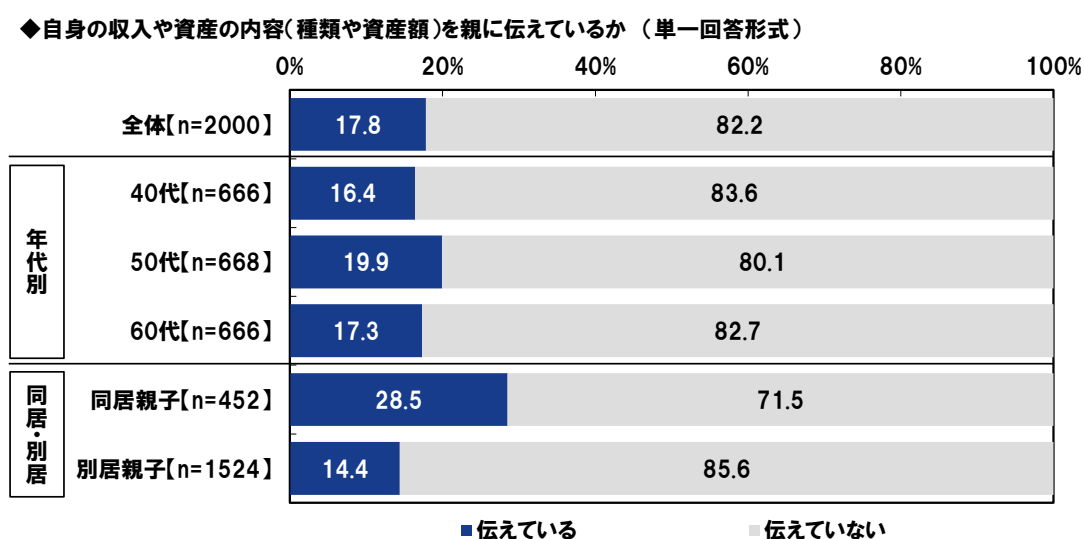
同居親子と別居親子を比較すると、同居親子では「把握している」は 45.4%と、別居親子（32.0%）と比べて 10 ポイント以上高くなりました。



自身の収入や資産の内容（種類や資産額）を親に伝えているか聞いたところ、「伝えている」は 17.8%、「伝えていない」は 82.2%となり、大多数が伝えていないことがわかりました。

年代別にみると、「伝えている」が最も高くなったのは 50代（19.9%）でした。

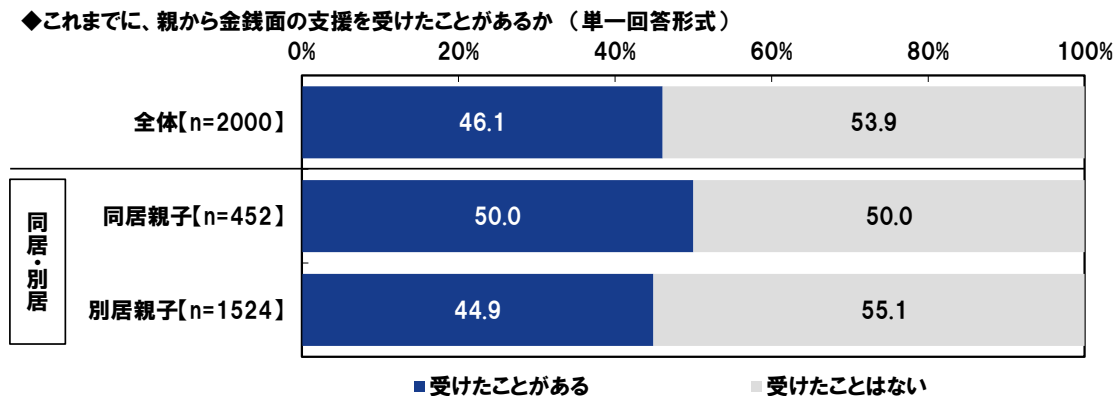
同居親子と別居親子を比較すると、「伝えている」（同居親子 28.5%、別居親子 14.4%）は同居親子が別居親子の約 2 倍となりました。同居親子では、生活を共にするうえで、資産の状況などについて情報を共有している親子が少なくないようです。



- 金銭の支援は一方通行？ “親に金銭面の支援をしたことがある人”は23%、
 “親から金銭面の支援を受けたことがある人”は46%と、支援をしたことがある人の2倍に
 ■親から受けた支援額 平均は「不動産購入時の頭金」563万円、「子どもの教育資金」180万円、
 「生活費（社会人以降）」139万円、「結婚費用」137万円、「自動車購入時の頭金」133万円

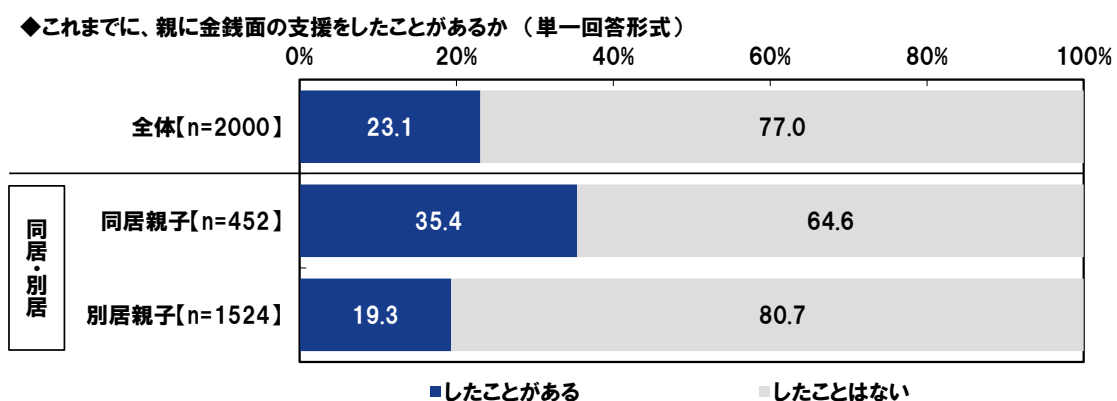
全回答者（2,000名）に、これまでに、親から金銭面の支援を受けたことがあるか聞いたところ、「受けたことがある」は46.1%、「受けたことはない」は53.9%となりました。

同居親子についてみると、「受けたことがある」は50.0%と、半数となりました。別居親子についてみると、「受けたことがある」は44.9%でした。



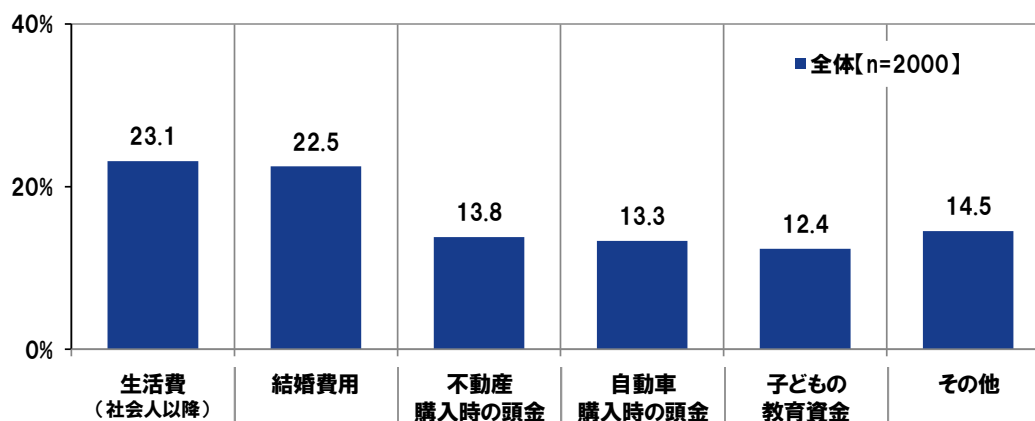
一方で、これまでに、親に金銭面の支援をしたことがあるか聞いたところ、「したことがある」は23.1%、「したことはない」は77.0%となり、支援をしたことがない人が多数でした。ここで、“支援を受けたことがあるか”の結果とあわせてみると、支援を受けたことがある人の割合（46.1%）は支援をしたことがある人の割合（23.1%）の2倍となりました。

同居親子と別居親子を比較すると、「したことがある」（同居親子 35.4%、別居親子 19.3%）は同居親子が16.1ポイント高くなりました。



親から金銭面の支援を受けたことがあるものを聞いたところ、最も高くなったのは「生活費（社会人以降）」（23.1%）となり、「結婚費用」（22.5%）、「不動産購入時の頭金」（13.8%）、「自動車購入時の頭金」（13.3%）、「子どもの教育資金」（12.4%）が続きました。

◆親から金銭面の支援を受けたことがあるもの

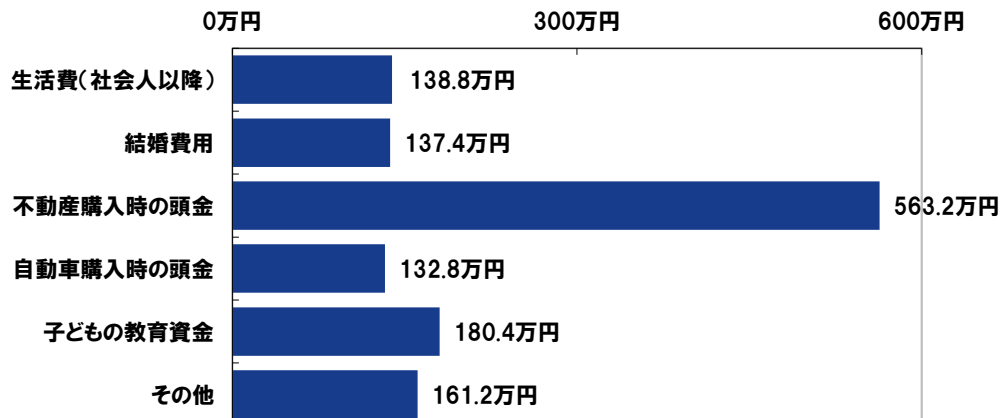


支援額の平均（受けたことがある人）をみると、「生活費（社会人以降）」は 138.8 万円、「結婚費用」は 137.4 万円、「不動産購入時の頭金」は 563.2 万円、「自動車購入時の頭金」は 132.8 万円、「子どもの教育資金」は 180.4 万円となりました。

◆これまでに親から受けたことがある支援額の平均

（各自由回答形式：数値／____万円くらい）

※受けたことがある人の平均を表示



第4章：『おとなの親子』の贈与・相続

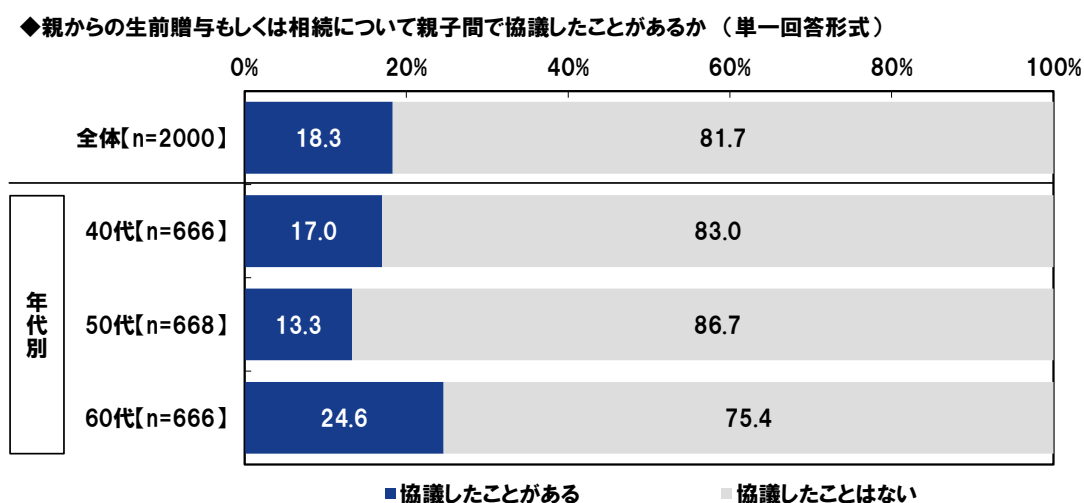
■「親からの生前贈与もしくは相続について親子間で協議したことがある」60代の4人に1人

■「親から生前贈与を受けたことがある」1割強

親からの贈与や相続について質問しました。

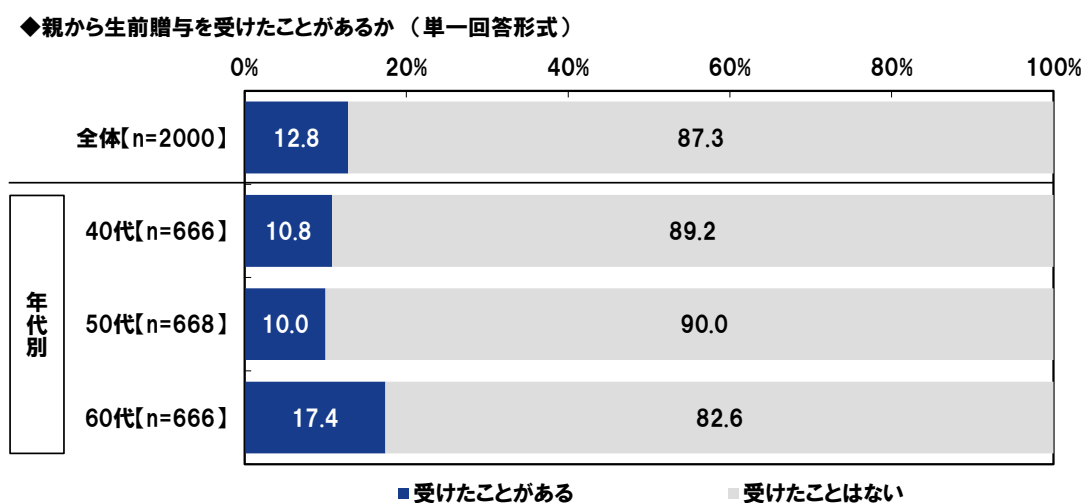
全回答者（2,000名）に、親からの生前贈与もしくは相続について親子間で協議したことがあるかを聞いたところ、「協議したことがある」は18.3%、「協議したことはない」は81.7%となりました。生前贈与や相続について親子で話し合った経験のある人は少数にとどまりました。

年代別にみると、「協議したことがある」と回答した人の割合は、60代（24.6%）では4人に1人の割合となりました。



親から生前贈与を受けたことがあるかを聞いたところ、「受けたことがある」は12.8%、「受けたことはない」は87.3%となりました。

年代別にみると、「受けたことがある」と回答した人の割合は、40代（10.8%）と50代（10.0%）では1割にとどまる結果となりました。



■相続対策の状況は？ 後回しにしている人が圧倒的！ 約9割が「まだしていない」と回答

■相続に関する不安要素も

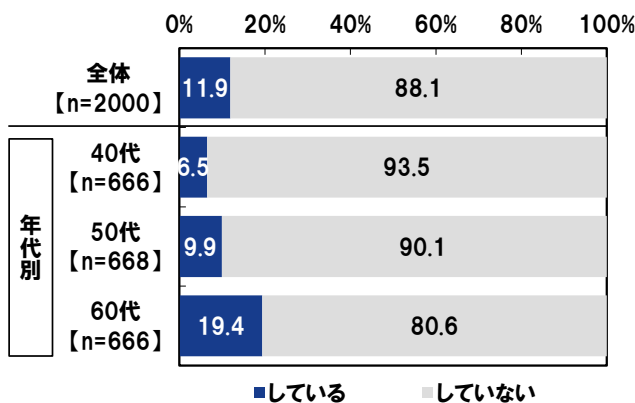
「争族に陥ると心配している」相続対策をしていない人の約6人に1人、
「親の遺言の内容を知っている」1割、
「きょうだい間など親族同士の助け合いやコミュニケーションが少ない」約4割、
「親の資産が分割しづらい自宅などに偏っている」3割弱

全回答者（2,000名）に、相続対策を既に行っているかを聞いたところ、「している」は11.9%、「していない」は88.1%となりました。

年代別にみると、「している」と回答した人の割合は、40代（6.5%）と50代（9.9%）では1割未満となりました。

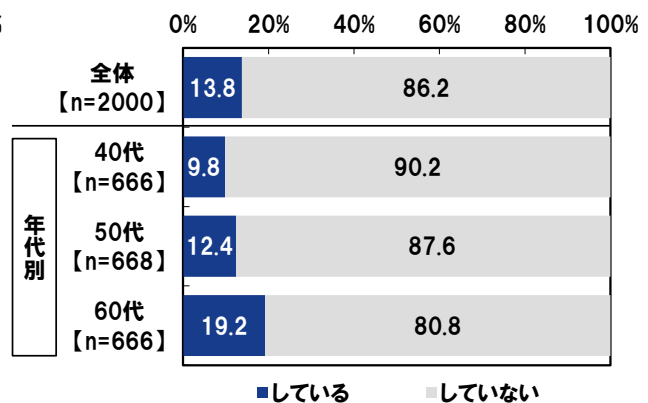
前回の調査結果と比較すると、「している」と回答した人の割合は、40代（前回調査 9.8%→今回調査 6.5%）では3.3ポイント下降しました。

◆相続対策を既に行っているか（単一回答形式）



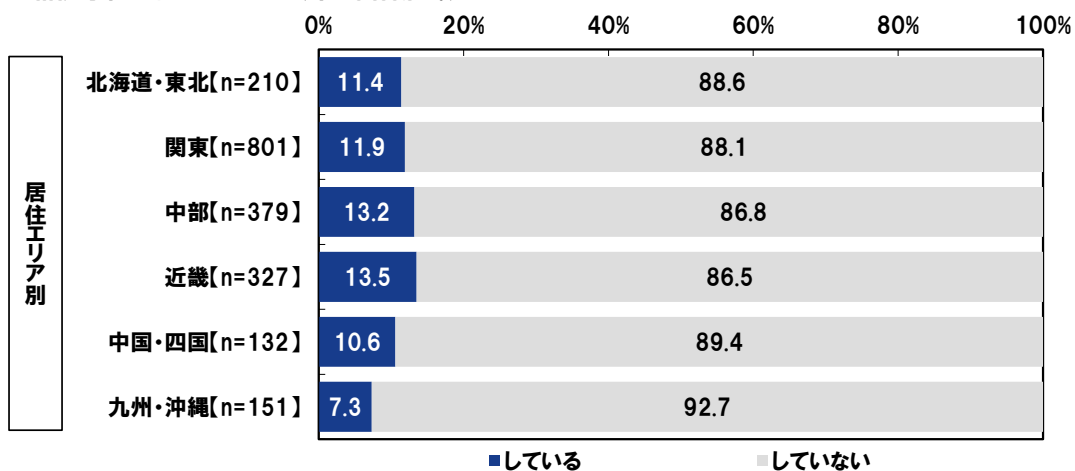
【2024年調査】

◆相続対策を既に行っているか（単一回答形式）



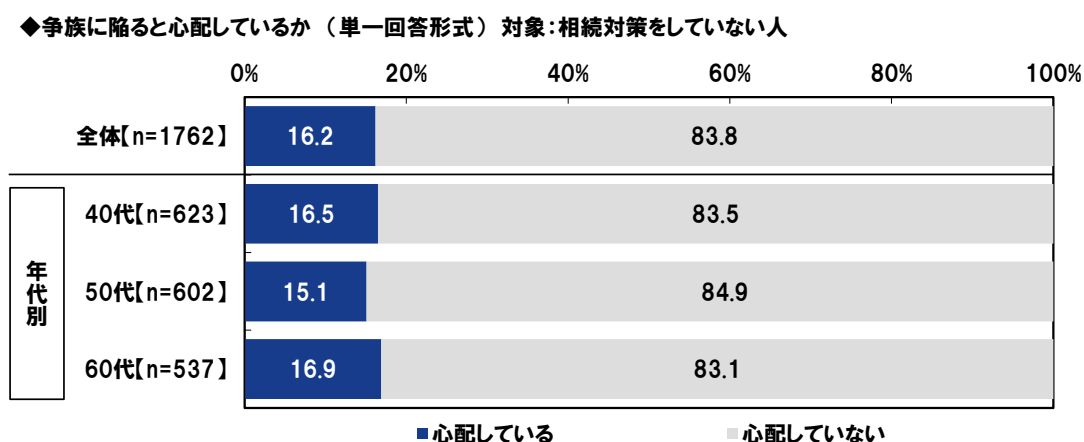
居住エリア別にみると、「している」が最も高くなったのは、近畿（13.5%）、次いで中部（13.2%）となりました。最も低くなったのは、九州・沖縄（7.3%）で、1割未満にとどまりました。

◆相続対策を既に行っているか（単一回答形式）



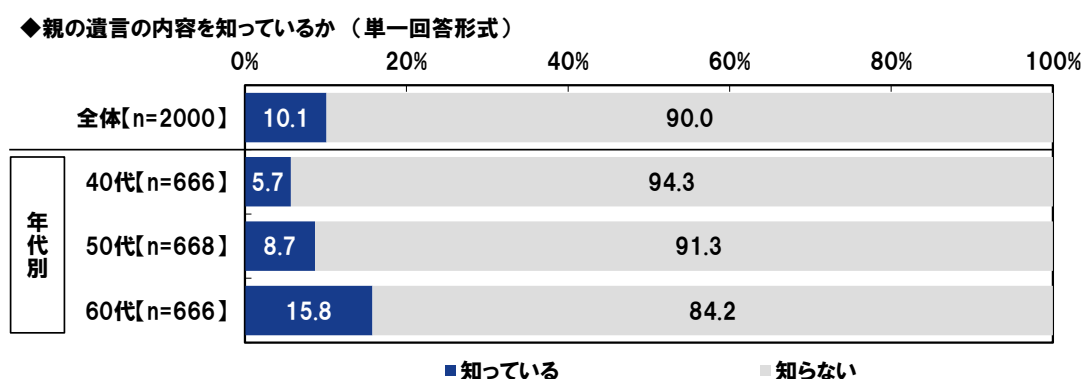
相続対策をしていない人（1,762 名）に、争族（※）に陥ると心配しているかを聞いたところ、「心配している」は 16.2%、「心配していない」は 83.8%と、心配している人は少数派となりました。

※遺産相続を巡り親族などの相続人同士が争うこと

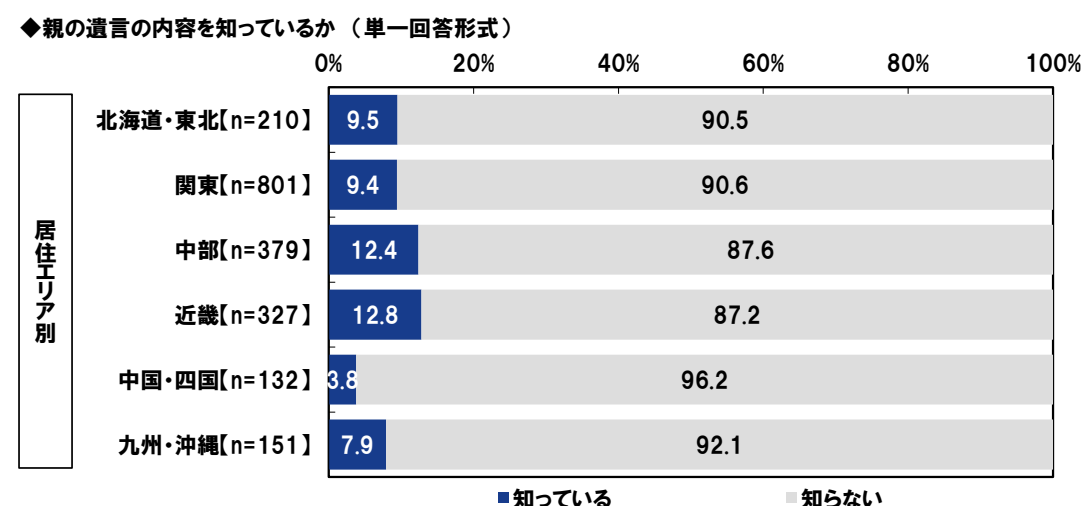


親の遺言の内容を知っているかを聞いたところ、「知っている」は 10.1%、「知らない」は 90.0%となりました。

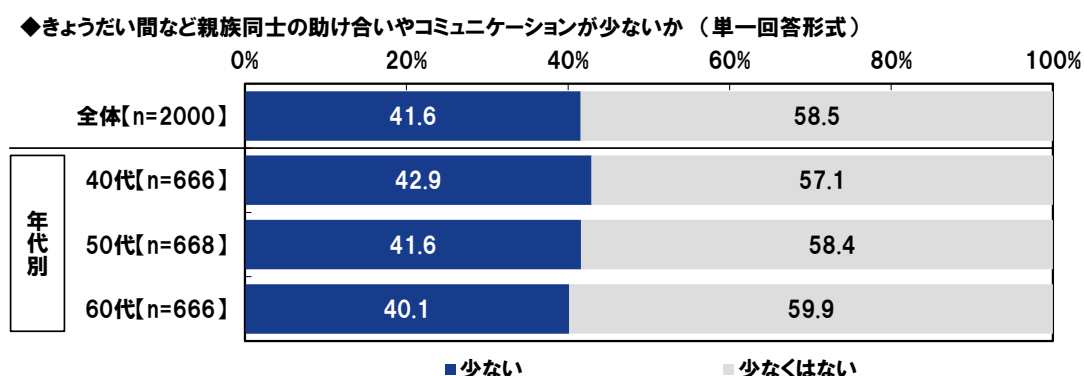
年代別にみると、「知っている」と回答した人の割合は 40 代 5.7%、50 代 8.7%、60 代 15.8%と、年代が上がるにつれて上昇する傾向がみられました。



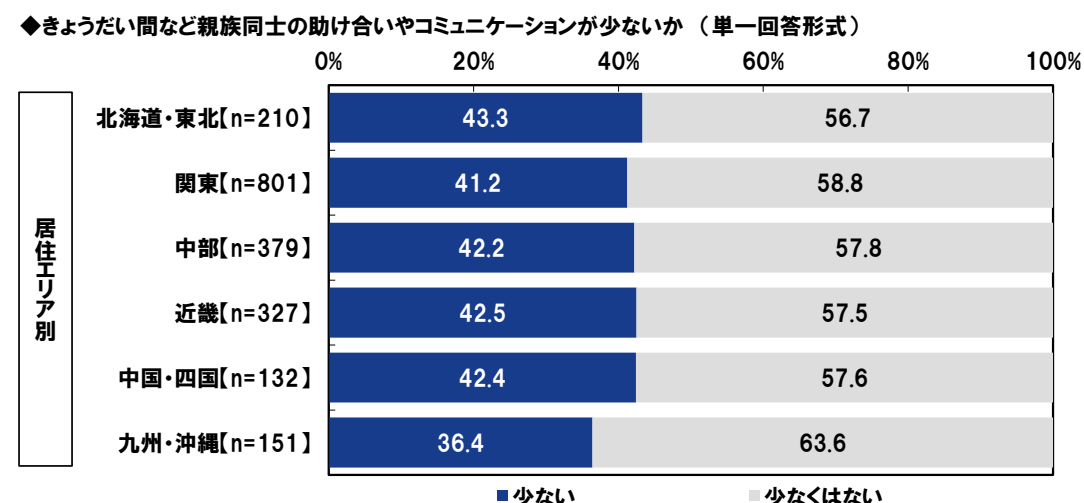
居住エリア別にみると、「知っている」は、相続対策を既に行っている人と同様に、近畿（12.8%）が最も高くなり、中部（12.4%）が続きました。一方で、最も低くなったのは、中国・四国（3.8%）で、5%を下回りました。



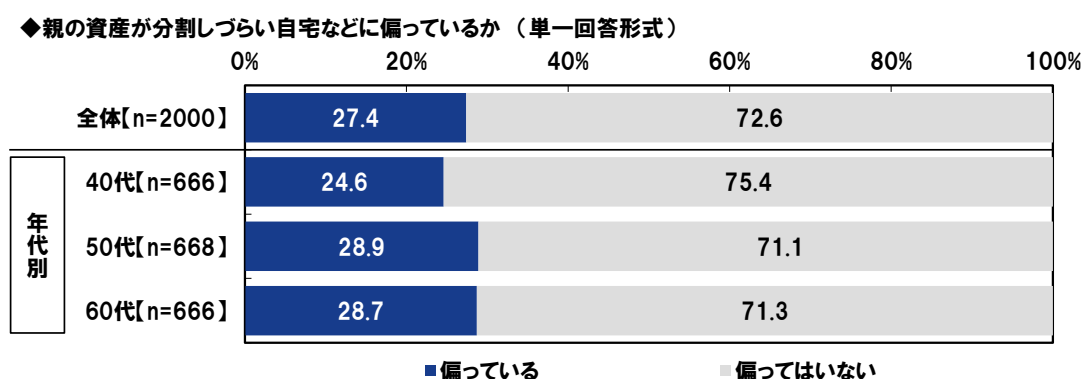
きょうだい間など親族同士の助け合いやコミュニケーションが少ないかを聞いたところ、「少ない」は41.6%、「少なくはない」は58.5%となりました。親族相互で声を掛け合ったり、協力したりする機会に乏しいと感じている人が少なくないようです。



居住エリア別にみると、「少ない」が最も高くなったのは北海道・東北（43.3%）でした。また、「少なくはない」が最も高くなったのは、九州・沖縄（63.6%）で、6割以上となりました。



親の資産が分割しづらい自宅などに偏っているかを聞いたところ、「偏っている」は27.4%、「偏ってはいない」は72.6%となりました。



「争族」の心配をしていない人が多かったものの、親の遺言の内容を知らない、親族間のコミュニケーションが少ない、資産が分割しづらいといった、「争族」の原因となりかねない状況を抱えている人は少なくないことがわかりました。

第5章：『おとなの親子』の将来への不安

■人生 100 年時代 親の介護で不安なことは体力より精神への負担！

40 代では「介護と仕事の両立」が 1 位

全回答者（2,000 名）に、親の介護について、不安を感じることを聞いたところ、「精神的負担」（28.0%）が最も高くなり、「体力的負担」（26.5%）、「介護と仕事の両立」（22.9%）、「介護に関する情報や知識が足りない」（22.6%）、「親がどんな介護を希望しているかわからない・知らない」（19.1%）、「介護費用が足りない」（17.9%）が続きました。金銭面に対してよりも、心身への負担や仕事との両立、情報不足といったことに関して懸念している人のほうが多いようです。

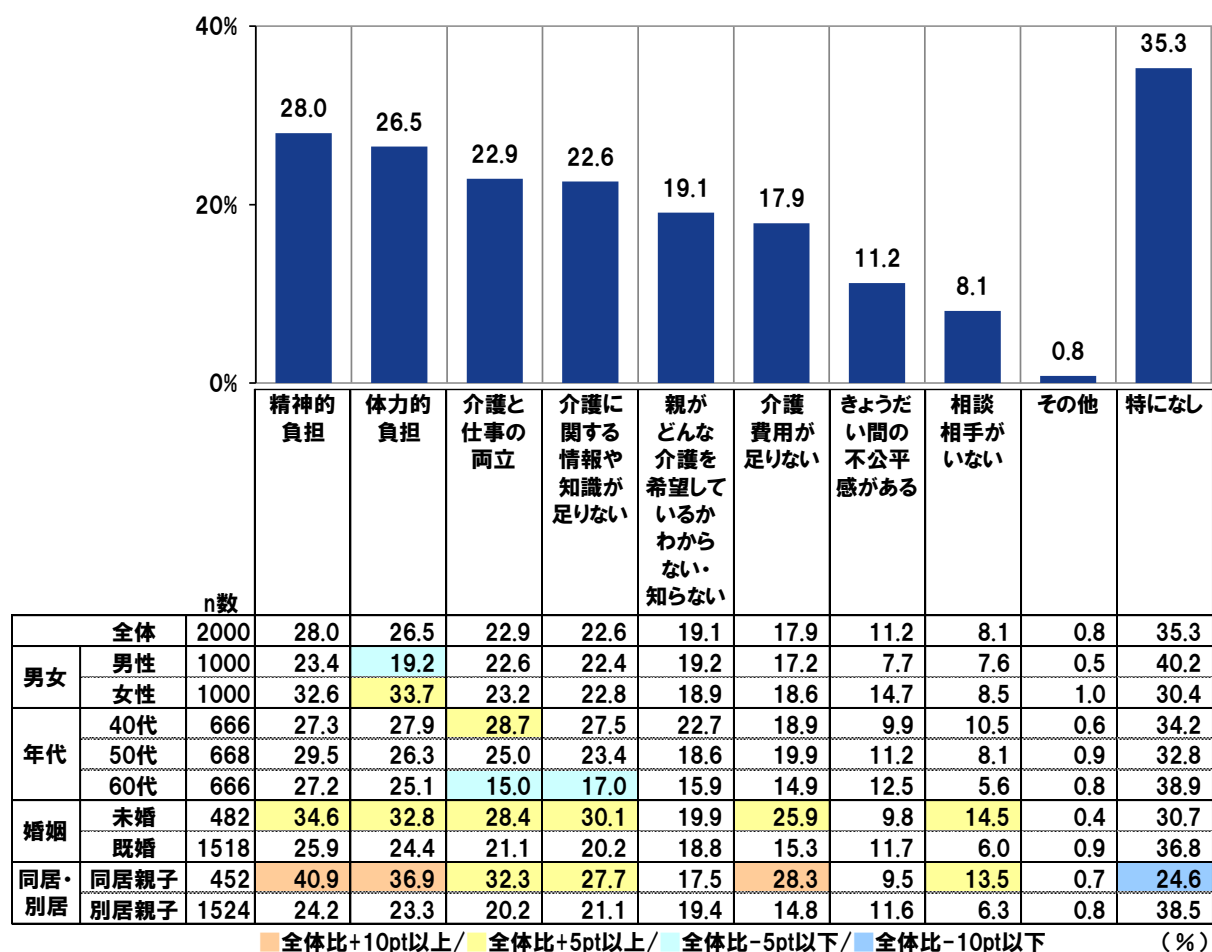
男女別にみると、「体力的負担」（男性 19.2%、女性 33.7%）は、男性と比べて女性のほうが 14.5 ポイント高くなりました。

年代別にみると、40 代では「介護と仕事の両立」（28.7%）が 1 位でした。

婚姻状況別にみると、「介護費用が足りない」（未婚者 25.9%、既婚者 15.3%）は、既婚者と比べて未婚者のほうが 10.6 ポイント高くなりました。

同居親子・別居親子についてみると、同居親子では「精神的負担」（40.9%）、「体力的負担」（36.9%）、「介護費用が足りない」（28.3%）が、全体と比べて 10 ポイント以上高くなりました。

◆親の介護について、不安を感じること（複数回答形式）



■親が介護状態になったらどうしたい？ 同居親子では「親と同居して介護する」が約4割、別居親子では「介護施設に入居してもらう」が4割

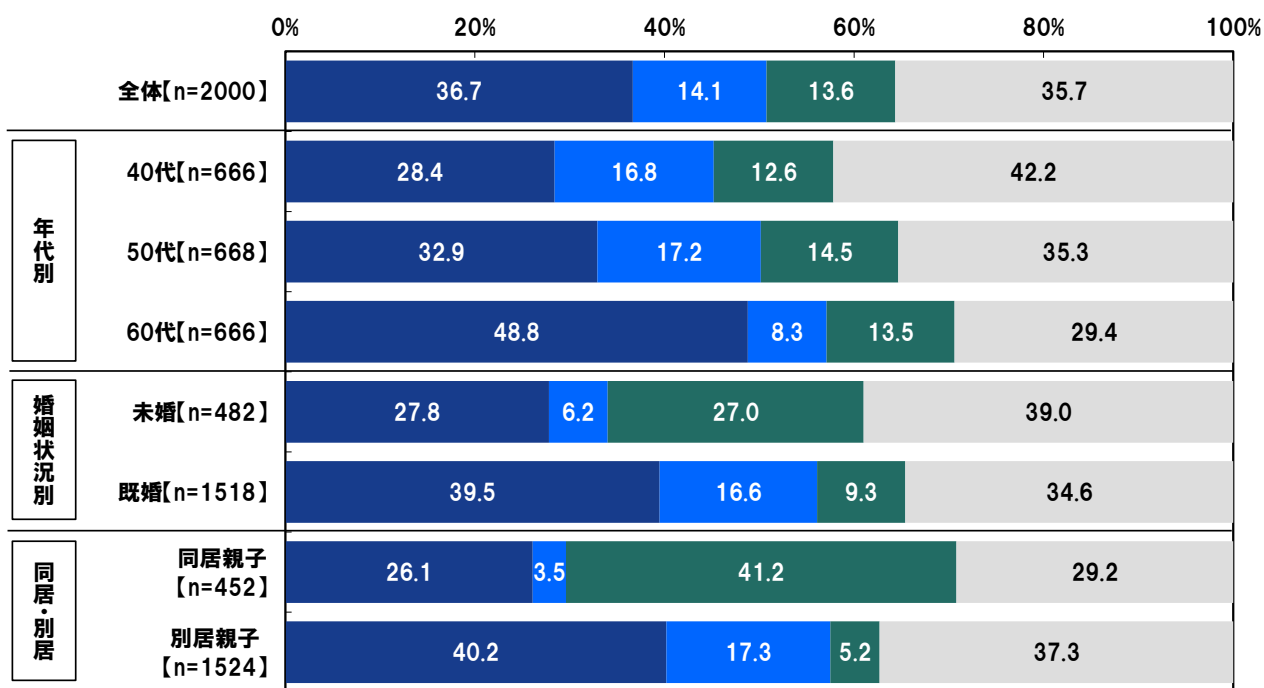
全回答者（2,000名）に、親が介護状態になったらどうしたいか聞いたところ、「介護施設に入居してもらう」が36.7%、「親元へ通って介護する」が14.1%、「親と同居して介護する」が13.6%となりました。老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅といった施設に入居してもらうことを希望する人が多いようです。

年代別にみると、「介護施設に入居してもらう」は年代が上がるにつれ高くなる傾向がみられ、最も高くなった60代（48.8%）では、約半数となりました。60代では老老介護となるリスクを避けたいと考えている人が多いのではないのでしょうか。

婚姻状況別にみると、「親と同居して介護する」は既婚者（9.3%）と比較して未婚者（27.0%）が17.7ポイント高くなりました。

同居親子・別居親子についてみると、同居親子では「親と同居して介護する」（41.2%）が最も高くなり、別居親子では「介護施設に入居してもらう」（40.2%）が最も高くなりました。現在親と同居している人では、親が介護状態になった場合も、引き続き親と一緒に生活したいと考えている人が多いようです。

◆親が介護状態になったらどうしたいか（単一回答形式）



■介護施設に入居してもらう ■親元へ通って介護する ■親と同居して介護する ■特になし/わからない

■親が飼っているペットの種類 「犬」42%、「猫」39%

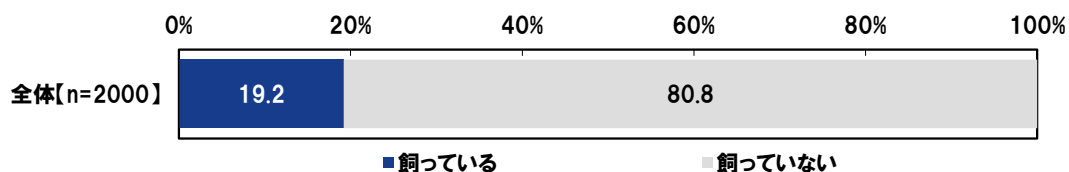
「ペットロボット」は2%と、「ハムスター」の1%を上回る結果に

■親が介護状態になったり、亡くなったりした際に、親のペットの世話をどうする？

別居親子では「何も決めていない」が半数以上

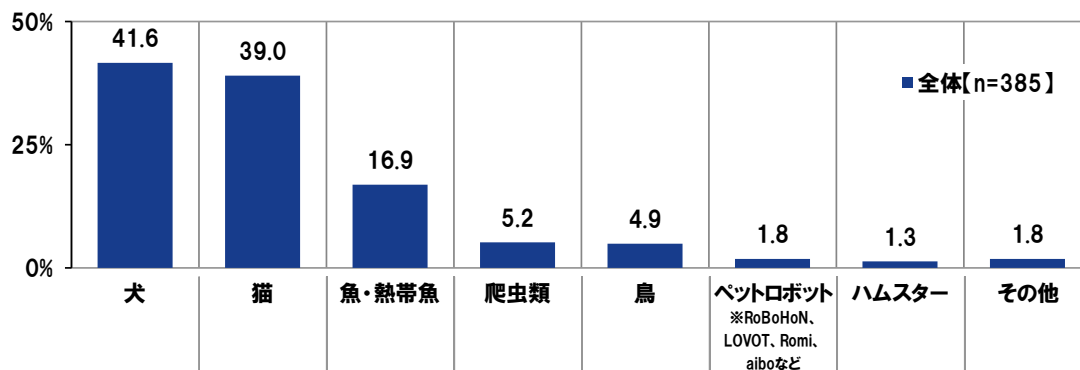
全回答者（2,000 名）に、親がペット（ペットロボットを含む）を飼っているか聞いたところ、「飼っている」は 19.2%、「飼っていない」は 80.8%となりました。

◆親がペット(ペットロボットを含む)を飼っているか



親がペットを飼っている人（385 名）に、親が飼っているペットを聞いたところ、「犬」（41.6%）と「猫」（39.0%）が高くなり、「魚・熱帯魚」（16.9%）、「爬虫類」（5.2%）、「鳥」（4.9%）が続きました。

◆親が飼っているペット(ペットロボットを含む)（複数回答形式） 対象:親がペットを飼っている人



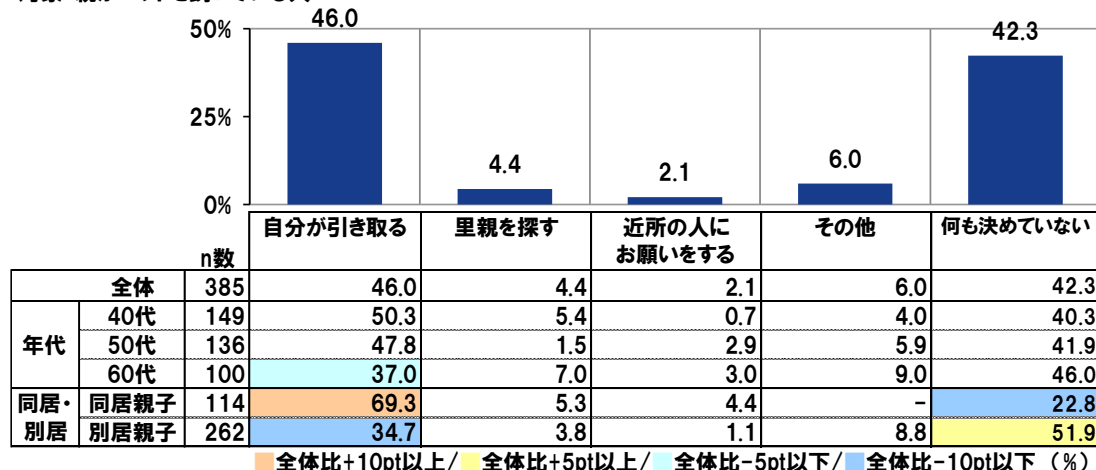
親がペットを飼っている人（385 名）に、親が介護状態になったり、亡くなったりした際に、親のペットの世話をどのようにするか聞いたところ、「自分が引き取る」は 46.0%、「里親を探す」は 4.4%、「近所の人をお願いをする」は 2.1%となりました。また、「何も決めていない」は 42.3%と、4 割強の人が未定であることがわかりました。

年代別にみると、「自分が引き取る」は、上の年代ほど低くなりました。

同居親子・別居親子についてみると、別居親子では「何も決めていない」（51.9%）が半数を超える結果となりました。親と別居している人の多くが、親がペットの世話をできなくなった際の問題について、検討を先送りしている実状が明らかになりました。

◆親が介護状態になったり、亡くなったりした際に、親のペットの世話をどのようにするか（複数回答形式）

対象:親がペットを飼っている人

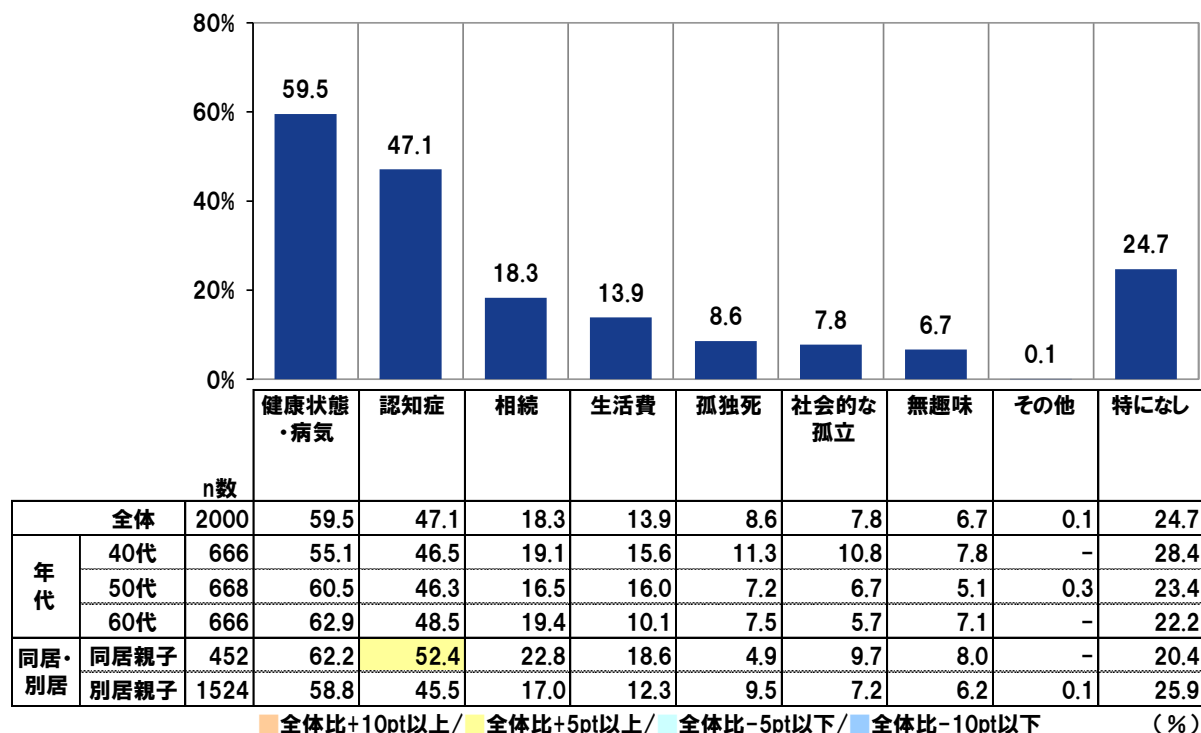


■親の今後やサポートについて不安やリスクを感じること TOP2 「健康状態・病気」「認知症」

最後に、全回答者（2,000 名）に、親の今後やサポートについて、不安やリスクを感じることを聞いたところ、「健康状態・病気」（59.5%）と「認知症」（47.1%）が高くなりました。親が病気や認知症になった場合の生活やサポート体制について、懸念している人が多いようです。次いで高くなったのは、「相続」（18.3%）、「生活費」（13.9%）、「孤独死」（8.6%）でした。

同居親子・別居親子についてみると、同居親子では「認知症」が 52.4%、「相続」が 22.8%、「生活費」が 18.6%と、別居親子（順に 45.5%、17.0%、12.3%）と比べて 5 ポイント以上高くなりました。

◆親の今後やサポートについて、不安やリスクを感じること（複数回答形式）



注：本調査レポートの百分率表示は小数点第2位で四捨五入しているため、
合計しても100%とならない場合がございます。
また、属性別集計において抜粋して表示している場合は、n数を合計しても全体と一致しない場合がございます。

- ◆調査タイトル：『おとなの親子』の生活調査 2025
- ◆調査対象：ネットエイジアリサーチのモニター会員を母集団とする
70歳以上の実の親がいる40～69歳の男女
- ◆調査期間：2025年9月9日～9月11日
- ◆調査方法：インターネット調査
- ◆調査地域：全国
- ◆有効回答数：2,000サンプル
(有効回答から性別×年代区分がほぼ均等になるように抽出)

(内訳)	40代	50代	60代
男性	333	334	333
女性	333	334	333

- ◆調査協力会社：ネットエイジア株式会社

■■会社概要■■

会社名：プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命保険株式会社
代表者名：代表取締役社長 兼 CEO 得丸 博充
創業：2010年4月1日
本社所在地：東京都千代田区永田町 2-13-10
業務内容：生命保険業
(営業種目：個人保険、個人年金保険、団体保険、団体年金保険)

■■報道関係の皆様へ■■

本ニュースリリースの内容の転載にあたりましては、
「PGF生命調べ」と付記のうえご使用いただきますようお願い申し上げます。